

(公聴会公述人の意見)

1 3 . 利根川・江戸川ブロック

○平成19年2月23日 (群馬県高崎市)

○平成19年2月26日 (東京都江戸川区)

○平成19年2月28日 (千葉県野田市)

○平成19年3月 1日 (千葉県佐倉市)

○平成19年3月 5日 (埼玉県栗橋町)

○平成19年3月 6日 (埼玉県春日部市)

○平成19年3月 7日 (茨城県取手市)

○平成19年3月 8日 (栃木県野木町)

○平成19年3月 9日 (千葉県香取市)

利根川水系河川整備計画 公述希望届書(利根川・江戸川)

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
1	60歳以上	男性	茨城県	古河市	<p>渡良瀬貯水池(谷中湖)の失敗を繰り返してはならない渡良瀬遊水池では過去にいくつもの大規模土木事業が行われ、遊水池の素晴らしい自然がその都度、大きく損なわれてきた。最大の土木事業は谷中湖の建設であった。その場所にはかつてオバケ沼といわれた大きな水面があり、その周辺も含めて自然の宝庫であったが、今はコンクリートの護岸で囲まれた人工的な水面に変わってしまっている。谷中湖は渡良瀬川最下流の水を貯める為、藻類の異常増殖による水質悪化がひどく、その改善対策として、ヨシ原浄化池など、更なる土木事業が行われてきたが、その効果はあまりなく、谷中湖の水質は今なお劣悪な状態にある。</p> <p>遊水池では次の土木事業として、治水容量増強という名目もとに大規模掘削事業が浮上してきているが、すでに1億7千万強m³という大きな治水容量が確保されている遊水池ではその必要は皆無であり、これ以上の自然破壊は進めてはならない。</p>	<p>・遊水池は鳥類にとって非常に好ましい繁殖地であり、越冬地であり、非常に環境のいい箇所である。自然を保護することは、鳥だけを見てもうかがえるかと思います。</p> <p>・100年経った遊水池を、これからの100年に対して1つ提言したい。それは、これらの遊水池の自然の宝庫を学習の場として、教育特区で、わたらせ自然学校、これを作ってもらって、将来の青少年の教育の場として提供する。教育の場として利用して、将来の青少年のために、命の大切さ、それを学習の場として、植物、あらゆることを含めた教育の場を提供する。そういう学校を作っていただきたい。</p>	<p>・渡良瀬遊水池は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、の4県にまたがる日本で最大の遊水池で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るという、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水池は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p> <p>・利根川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、釣りやスポーツ等の河川利用及び環境学習や自然体験の場となる「水辺の楽校」等について、地域と連携して整備を推進します。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
2	60歳以上	男性	茨城県	取手市	<p>私は、利根川水系河川整備計画の根幹をなす八斗島地点の基本高水22000t/秒に深い疑念を持つものです。以下のように公述致したく届出ます。</p> <p>1. 八斗島における基本高水22000t/秒は恣意的な数字の積み重ねでしかない。科学的根拠は極めて乏しい。</p> <p>2. 八斗島における過去50年余の洪水で10000t/秒を超えたものは1度もない。実績を尊重すべきだ。</p> <p>3. 河川整備基本方針の根拠となるキャスリーン台風の洪水流量は16000t/秒とも17000t/秒ともいわれる。しかも推測値でしかない。22000t/秒はいかにも過大だ。</p> <p>4. 河川整備基本方針では22000t/秒の内、5500tは上流のダムでカットするというが、新規のハツ場ダムを加えても1600tにしかない。残る3900tをカットするにはハツ場ダム級を10数基作らねばならない。</p> <p>5. 河川整備計画の基礎になる数字が恣意的で曖昧なものである。故に整備計画に入ること自体問題である。</p>	<p>・2万2000m³/sという基本高水が、これだけまがまがしい数字がひとり歩きしてしまっていて、さまざまな公共事業を生み出している。</p> <p>・思川開発、ハツ場ダム、湯西川ダム、霞ヶ浦導水事業、これらの総費用は、茨城県は2,200億円負担することになっています。</p> <p>・思川開発については、水のたまらないダムに渡良瀬遊水地の下流にある茨城県がなぜ負担しなければならないのか。</p> <p>・湯西川ダムは、鬼怒川の治水計画で全く無駄なダムを強引に割り込ませてあり、その負担も茨城県はしようとしている。</p> <p>・今、茨城県は270～280万人の人口で、新たな水源としてハツ場ダム、導水事業等が加わると、615万人分の水を持つことになる。このような茨城県の無駄使いは、その前提条件に利根川の整備計画があるからです。</p>	<p>昭和55年に改訂した工事実施基本計画において、八斗島地点における基本高水のピーク流量は、1/200確率流量と観測史上最大流量のいずれか大きい値として、22,000m³/sと決定されています。</p> <p>平成18年2月に河川整備基本方針を策定するにあたっては、昭和55年以降の年最大流量と年最大降雨量の経年変化、流量確率による評価、既往洪水による検証流量との比較の観点から更に科学的に検証を加え、22,000m³/sが妥当であると判断されています。</p> <p>思川開発事業では4県(埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約3m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定豊水水利権として約1m³/s(約30%)が既に使われており、早急に暫定豊水水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
						<p>・国土交通省は、ハッ場ダムができて、カスリーン台風が再来しても、全く効果がゼロだと言っています。ハッ場ダムの必要性はないことを、国土交通省自身が認めています。</p> <p>・本当に流域住民のために必要であるならば、やはり議論を重ねながら作成していくべきではないでしょうか。</p>	<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
3	60歳以上	男性	群馬県	藤岡市	<p>【洪水調整施設整備(上流ダム群)についての意見】下久保ダム利水容量の振替は下久保ダムが地域に与える観光資源的役割と地域活性に大きなブレーキとなることが予想されますので容量振替の再検討をお願いします。</p> <p>【予想される懸念や不安】</p> <p>1. 国土交通省に対する不信感の広がり。下久保ダム建設に当たり大多数の住民は活性の道が開けると確信し早期着工を陳情したことに対する不信感の広がりがダムの存在論に発展することが予想される。</p> <p>2. 多野郡広域での地域コミュニティの崩壊のおそれ。下久保ダム(神流湖)は地域産業に乏しいこの地では観光産業の柱で地域コミュニティを保つ最後の砦である水位低下がもたらす観光的存在価値の低下による地域崩壊が懸念される。</p>	<p>・今回の国土交通省の提案ですが、非常に残念なのは計画をしっかりと住民の皆さんに説明がなされていない。</p> <p>・地域の観光協会、また、地域の皆さんのグループが、この下久保ダムをしっかりと利用して、数々のイベントをしています。</p> <p>・地域の住民の皆さんが下久保ダムとともにこの町をつくろうということで頑張っています。</p> <p>・我々の地域はダムのある町として、このダムの空間をしっかりと利用して地域づくりをしたいと考えています。</p> <p>・再びこの計画によって下久保ダムがだめになろうとしています。</p> <p>・全面的に反対です。</p> <p>・これからもまちづくりをするので、ご協力をいただければありがたいと思います。</p>	<p>利根川上流ダム群再編事業は、利根川流域全体のバランスの良いダム及びその機能の配置を再構築するための調査・検討を行っているところであり、既存ストックの有効活用の観点から、利根川の上流ダムをどのように活用できるか、引き続き調査・検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>本事業の検討にあたっては、利水者への影響と地域活性化や景観などの観点から、地元のご意向も十分に把握しながら検討していきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
4	60歳以上	男性	千葉県	千葉市	<p>本計画は千葉県の行政および住民の生活にとって重要な問題であるにもかかわらず、計画は行政に、また住民にほとんど広報されずにきている。本公聴会における意見の集約で決定に移行することなく、自治体単位の議会での審議、住民の意見聴取を行い、これを河川単位の合同審議を行って集約することが必要である。</p> <p>問題は次のとおりである。 ①千葉県内の治水が具体的にどのように改善されるのか。</p>		<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					<p>②利水について、人口が減少する中でハッ場ダムを建設し、利水を増やすことの必要性。地下水の利用を否定する理由。</p> <p>③環境については、河川および印旛村などの環境の改善に取り組んでいる自治体や住民の施策を考慮していないこと理由。</p> <p>④財政については、ハッ場ダム建設関連に対しての千葉県の支出に加え、利水の増加を見込む為の導水路や浄水場などの関連設備額。利根川放水路計画の必要経費。これら経費の投入に対する償還計画と水道利用料金との関連</p>		<p>ハッ場ダムは、吾妻川下流及び利根川下流地域の洪水被害の軽減、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持する流量の確保、下流1都4県の新規都市用水の確保を目的として、利根川水系吾妻川(群馬県吾妻郡長野原町)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>ハッ場ダムが完成すると、最大毎秒2,400m³の洪水調節を行い、利根川水系の上流ダム群とともに、下流部の洪水被害を軽減し、沿川地域の人々の生命・財産を守ります。</p> <p>また、ハッ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>ハッ場ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を</p> <p>ハッ場ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を目指します。</p> <p>河川整備計画の検討に当たっては、関係自治体や住民の皆様が取り組んでおられる施策も考慮していきます。</p> <p>ハッ場ダムの建設等に際して各都県からご負担いただく金額は、それぞれの受益の程度等に応じて決められます。一方、千葉県の支出に関しいただいたご意見につきましては、千葉県に伝えさせていただきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
5	60歳以上		茨城県	取手市	<p>利根川水系河川整備計画に位置づけられている稲戸井調節池の利水計画があまりにも過大な想定(基本高水を八斗島で22000t/s)であり、これを稲戸井調節池に流入しようとするれば、満水容量3080万トンでは25分程度でその機能を果たせなくなる。そこで掘削による容量を増やす案が提示(3m→5m)されたが、これは人造湖をつくるなにもものでもない。地下水、雨水を溜め周辺の生態系を破壊することは容易に類推できる。</p> <p>流入した濁流は川と違って滞留するため掘削部分が格好の沈砂池となり、土砂で埋まってしまいその機能は失われるのにそう長い年月は要しない。これはハツ場ダムをはじめ幾多の現況からも云える。溜まった土砂を除去するためには掘削費の数倍を要することは目に見えている。</p> <p>費用対効果をはじめ事例研究や洪水想定の見直し、掘削等長期的視野にたつて流域住民参加のもとで、公開協議することを求める者です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・稲戸井調節池の大規模掘削事業について、見直しを求める意見を述べるものです。 ・個々には現状の安全度が確保されて、自然環境が維持されている状況のもとで、この掘削事業が果たして本当に必要なのか。不要不急の無駄な公共事業に値するのではないかと私は思います。 ・この大規模掘削計画をぜひ見直していただき、河川の自然環境が活かされた整備計画となるよう求めます。 ・国民と財産を守るを銘打った税金の無駄使いは、是非やめていただきたい。 	<p>鬼怒川合流点下流の利根川左岸側にある稲戸井調節池は、周辺にある田中調節池及び菅生調節池と一体となって洪水を調節することにより、利根川の下流部における治水安全度の向上を図る施設です。</p> <p>稲戸井調節池では、現在、周囲堤、囲ぎよう堤、越流堤、各排水施設等の調節池化整備を行うとともに、池内掘削を順次行っているところです。</p> <p>また、事業にあたっては、多様な湿地環境の再生を図るため、モニタリング調査を実施するとともに、必要に応じて、学識経験者等の意見を聴きながら、実施しているところです。</p> <p>なお、池内掘削で発生した土砂については、利根川及び江戸川の「首都圏氾濫区域堤防強化対策事業」の盛土材料として有効活用をすることを考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
6	50代	男性	東京都	江戸川区	<p>今日大規模事業への結果評価、いわゆる費用対効果が問われている。また、長期事業については不断の点検と見直しが求められる。そして河川改修では生物多様性の維持が求められている。しかし、この観点からこれまでの事業をチェックするという姿勢が、全く見られない。批判を浴びているダム3事業(ハツ場ダム、湯西川ダム、南摩ダム)は金食い虫であり、目的の効果には大いに疑問がある。</p> <p>一度ダムを造って川を堰き止めると、自然の生態系は全く変わってしまい、取り返しのつかない結果を生み出す。ダムを100%否定しないが、ダムでない方策を追求すべきである。今回の河川整備計画策定では進行中の事業をチェックするとともに、治水対策手段の様々な選択肢とその費用を考えて議論すべきである。今からでも遅くない。新河川法の精神に基づき、計画策定への市民参加を強く求める。</p>	<p>・ハツ場ダムについて、費用の説明がないではないか。特に、費用対効果の説明がない。</p> <p>・公聴会の進め方について、60分ものビデオ放映があった。</p> <p>・水系全体の公聴会の人選について、前首長と現首長が入っていた。</p> <p>・公述人の意見を聴く姿勢について、事務局の2名しかいない。</p> <p>・地元の住民が悲痛な思いでいるか察してほしい。</p>	<p>公共事業の実施に当たっては、平成10年度から公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の向上を目的に導入した事業評価制度により、その継続の是非を定期的に判断しています。河川整備計画のたたき台の公表に際しては、費用対効果について明らかにしていく予定です。</p> <p>利根川本川及び江戸川の河川整備計画においては、早期に治水安全度の向上を図るため、計画期間を概ね30年間とし、現状の治水安全度(利根川上流部において概ね1/30~40、下流部においては概ね1/10~20)を考慮し、概ね50年に1回の確率で生起すると予想される洪水を安全に流下させることを目標と考えています。</p> <p>利根川水系においては、上下流の治水バランスの状況、限られた期間における大幅な河道掘削の実現可能性等を考慮し、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく行うことが必要であると考えています。</p> <p>公聴会の開催など、住民の皆様のご意見を伺う場はこれからも設けていきたいと考えており、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるよう、可能な限りの工夫をしていきたいと考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
7	50代	女性	群馬県	沼田市	<p>30年以上利根川上流のほとりに住んでいます。20年程前から病気や奇形の鮎が見られるようになり、10年程前からは、鮎漁解禁後の利根川に何十何百もいた鮎釣り人が殆どいなくなっています。私達が子供の頃は、夏によく利根川で泳いだり遊んだりしましたが、現在は川で遊ぶことは禁じられています。利根川上流に多くのダムが造られ、ダムから放流される冷たい水が鮎の冷水病の原因の一つと聞いています。群馬県は県産の稚鮎を育てる等の努力をしていますが、これら失われた価値は、計り知れないものと思います。</p> <p>基本方針では、洪水調節施設による調節流量が八斗島地点では5500m³/秒になっていますが、既設6ダムとハッ場ダムを合わせても流量低減効果は、1600m³/秒です。残りの3900m³/秒はどうするのでしょうか？根拠の乏しいピーク流量の見直しをし、環境、森林の保水機能も考慮し、ダムに頼らない、地に足のついた計画にして頂きたいです。</p>	<p>・利根川には10年程前に鮎釣り人が殆どいなくなっています。利根川上流に多くのダムが造られたのが原因だと考えている。</p> <p>・基本方針では、洪水調節施設による調節流量が八斗島地点では5500m³/秒になっていますが、既設6ダムとハッ場ダムを合わせても流量低減効果は、1600m³/秒です。残りの3900m³/秒はどうするのでしょうか？ダムを17基つくるのでしょうか ・森林の保水機能、クマタカなどの貴重種、水質の問題、JRや道路付け替えの周辺住民に考慮し、ダムを中止できないかと考えている。</p>	<p>利根川本川及び江戸川の河川整備計画においては、早期に治水安全度の向上を図るため、計画期間を概ね30年間とし、現状の治水安全度(利根川上流部において概ね1/30~40、下流部においては概ね1/10~20)を考慮し、概ね50年に1回の確率で生起すると予想される洪水を安全に流下させることを目標と考えています。</p> <p>利根川水系においては、上下流の治水バランスの状況、限られた期間における大幅な河道掘削の実現可能性等を考慮し、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく行うことが必要であると考えています。</p> <p>今後、上記の計画期間で目標を達成するための具体的な整備内容を、河川整備計画のたたき台において、お示しします。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
8	60歳以上	男性	埼玉県	三郷市	<p>現在工事中、計画中のダム建設等の大規模開発事業の中止を求める。利根川水系では多くのダム建設、河口堰建設など、大規模開発事業が行われ、それによって利根川の自然は大きく損なわれ、地元住民、漁民は多大の被害を受けてきた。</p> <p>過去においては首都圏の都市用水の増加が開発事業推進の理由であったが、今や時代は大きく変わって、都市用水は10年前から減少傾向となり、今後も節水機器の普及等によって、ますます減っていくことが確実となった。利水の面では新たなダム建設を進める必要性が皆無となり、さらには水余り減少を踏まえて、河口堰等の見直しを進めることも可能な状況になってきている。</p> <p>治水の面では効果が不明瞭なダムに依存した治水計画の危うさが明らかになってきている。「これ以上痛めつけなでくれ」と、利根川の自然が叫んでいるであろう声に耳を傾け、利根川におけるこれ以上の大規模開発事業をストップさせるべきである。</p>	<p>・大規模開発の時代から自然を取り戻す時代への転換を求める公述を行います。</p> <p>・これからつくる河川整備計画は、計画中、工事中の大規模開発事業を中止して、過去の大規模開発で失われた自然の回復、これを最重点課題にした計画を策定すべきだということです。</p> <p>・今や利水の面でも治水の面でも大規模開発事業を進める必要性はなくなっています。</p> <p>・今や利水の面でも治水の面でも大規模開発事業を進める必要性はなくなっています。</p> <p>・よりよい河川整備計画をつくっていくためには、我々住民と行政側が十分に議論していくことが必要です。</p> <p>・この公聴会を住民側と行政が十分に議論ができる、欧米ではごく普通に行われている双方向性の公聴会に変えるべきであります。</p>	<p>利根川本川及び江戸川の河川整備計画においては、早期に治水安全度の向上を図るため、計画期間を概ね30年間とし、現状の治水安全度(利根川上流部において概ね1/30~40、下流部においては概ね1/10~20)を考慮し、概ね50年に1回の確率で生起すると予想される洪水を安全に流下させることを目標と考えています。</p> <p>利根川水系においては、上下流の治水バランスの状況、限られた期間における大幅な河道掘削の実現可能性等を考慮し、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく行うことが必要であると考えています。</p> <p>また、利根川水系及び荒川水系における水利用は、水需給の逼迫性から、河川水が豊富なときだけしか取水できない不安定な取水に依存している状況であり、たびたび濁水調整を余儀なくされているため、水資源施設の早期整備による安定的な水資源の確保が必要となっています。「利根川水系及び荒川水系における水資源開発基本計画の全部変更(案)」(国土審議会 水資源分科会 利根川・荒川部会資料)によれば、平成27年度を目途とする水の需要及び供給の目標として、「水道事業及び工業用水道事業がこの水系に依存する需要の見通しは毎秒約176立方メートルである。」とし、これらの水需要に対し、新たな水資源開発のための施設とこれまで整備した施設等により、「供給が可能と見込まれる水道用水及び工業用水の水量は、近年の20年に2番目の規模の濁水時における流況を基にすれば毎秒約169立方メートルとなる。なお、計画当時の流況を基にすれば、その水量は毎秒約197立方メートルである。」とされています。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く支川等も多く、河川や地域の特性に応じて多様なご意見があるため、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるようにインターネットやはがきによる意見募集、住民の皆様のご意見を伺う場の開催などをこれからも実施していきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
9	60歳以上	男性	千葉県	印旛郡	<p>1. 印旛村の生態系や景観保全に配慮した整備計画の策定を望む。沼の動植物へ悪影響が出ないよう、入念な事前調査を実施願いたい。また、北印旛沼では成田新高速鉄道や北千葉道路の整備事業も進められており、観光資源としての活用を計るためにも景観に配慮した計画を望みます。</p> <p>2. 他の事業と整合性を持った整備計画を望む。地元土地改良区の役員の立場から申し上げますが、印旛村では農林水産省による印旛村2期事業や水資源機構による施設の緊急改築事業も計画されています。これらの事業には地元農家や自治体から経費負担が多いことから、経費が無駄になったり事業に手戻りが生じることがないよう連携を密にするとともに整合性も図っていただきたい。</p> <p>3. 事業実施に伴う影響等について精査を望む。沼周辺の自治体では今の状態でも台風や大雨時に冠水対策で苦慮しているところもあるので、事業により新たな災害が発生しないよう安全対策を最優先した計画策定を望みます。</p>	<p>○北印旛沼では成田新高速鉄道や北千葉道路等の整備による観光資源とした観点から景観の保全に配慮した計画を望む</p> <p>■印旛沼の生態系や景観保全に配慮した計画の策定をお願いしたい</p> <p>○通常は沼の水位を下げておき、緊急時に貯留する等の検討していると伺っている</p> <p>○水位変化時も、ヨシ、マコモ、ヒメガマ等の抽水植物への配慮をお願いしたい</p> <p>○水位変化時も、ハヤブサ、オオセッカ等の鳥類への配慮をお願いしたい</p> <p>■他の事業と整合性を持った整備計画をお願いしたい</p> <p>○農林水産省による印旛沼二期事業や水資源機構による緊急改築事業が計画されている</p> <p>○受益農家や市町村から応分の負担が生じるため、事業の無駄や手戻りが生じないよう連携を密にし費用対効果に配慮した事業の推進を図っていただきたい</p> <p>■計画策定に際しての影響等について十分精査願いたい</p> <p>○新計画では長門川、新川、花見川等の河川改修が生じる</p> <p>○沼周辺では現在でも大規模降雨時に冠水被害の対応に苦慮しており、新たな被害が生じないよう安全性を最優先した計画を望む</p> <p>●過去に成田空港問題などもあり、今回の計画が一方的に見切り発射することなく、周辺住民や関係自治体の意向も反映されたものを望む</p> <p>●異常気象を考えると、印旛沼への放水を拒否し続けることはできないと考えるが、印旛沼周辺の住民の思い入れにも配慮し、一定の基準やルールに基づいて事業が行われるべきである</p>	<p>利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。また、分派した洪水を印旛沼内に滞留させないことにより、植物プランクトンの増殖が抑制されるなどの水質改善の効果も期待されます。</p> <p>今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
10	60歳以上	男性	千葉県	印旛郡	<p>この基本計画原案策定において中央排水路に関して、下記事項について検討され、計画に反映して頂きたい。</p> <p>①印旛沼の自然環境(原風景)の復元・再生・創出</p> <p>②中川および流入河川の治水対策</p> <p>③植物(葦原)などによる水質浄化対策</p>	<p>●印旛沼の自然と共存し、孫や子供達に残してやるのが責務だと感じているが、中川は近年の異常気象で浸水被害をもたらしている。</p> <p>■印旛沼の自然環境の復元・再生</p> <p>○昔の印旛沼の原風景に戻していただけないか</p> <p>○かつての印旛沼にはマコモ、アサザ、コイ、フナなど多くの水生植物や魚が生息していた</p> <p>○近代の市街地化や印旛沼の開拓事業等により状況は変貌し生態系に影響が出た</p> <p>○今回の計画についてじっくりと立ち止まって考える時期である</p> <p>○自然環境の復元、再生、保全やみんなが親しめる水辺空間をつくり出していただけるような整備計画を望む</p> <p>■中川及びその流入河川の治水対策</p> <p>○酒々井町、特に中川流域は床上浸水が多い</p> <p>○中川が流入する中央干拓の低地排水路が印旛沼とつながっておらずポンプ排水を行っていることが影響している</p> <p>●酒々井町及び周辺地域の被害が解消できるような治水対策をお願いする</p> <p>■植物などによる水質浄化対策</p> <p>○印旛沼はゴミ清掃や草刈りなどが流域住民が実施しているが、飲料水としては全国で最も水質が悪い沼である</p> <p>●水質浄化対策として、下水道整備と合わせてアシ原や浮き草などの水生植物を利用した植生浄化を推進してほしい</p> <p>○現在切り離されている中央排水路と印旛沼を結ぶことにより、水害の対策や水の流動化による浄化を図れると考える</p> <p>●中央排水路を河川指定し、適正な管理をお願いする</p>	<p>・印旛沼水循環健全化会議の水循環健全化目標は、水生植物や魚が生息していた印旛沼を目指し「恵みの沼を再び」を目標に水循環健全化に取り組みます。更に細かい4つの目標として、「遊び、泳げる印旛沼・流域」「人が集い、人と共生する印旛沼・流域」「ふるさとの生き物はぐくむ印旛沼・流域」「大雨でも安心できる印旛沼・流域」を設定しています。国土交通省も千葉県などの関係機関と連携を図り、目標に向かって取り組みます。</p> <p>・現在、中川をはじめ印旛沼に流入する支川による内水被害が印旛沼流域で生じています。利根川放水路の洪水調節の施設計画において、長門川の改修や大和田排水機場の増強など内水排除にも機能する整備を検討します。これらは、印旛沼周辺の内水対策としては、流域の洪水時に印旛沼水位低下を図り、千葉県の鹿島川等の流入支川整備計画と合わせ流域の治水安全度の向上に寄与します。なお、利根川からの洪水分派は印旛沼の水位(調節容量)を考慮して分派量を調節しますので印旛沼流域の安全は確保されます。</p> <p>・植物による水質浄化対策については、印旛沼水循環健全化会議の目標達成評価の視点として、長期構想では沈水植物群落の再生、中期構想では浮葉植物群落の再生としています。</p> <p>印旛沼再生へ向けた水質改善の取り組みとして、印旛沼水循環健全化会議と連携して、学識者・研究機関・行政による印旛沼水質改善技術検討会が行っています。この中で、水位変動による水質や生態系などへ与える効果や影響について、水質改善効果検討ワーキング、植生検討ワーキング、水位管理検討ワーキングに分かれ検討しています。植生が水質に及ぼす影響や水の流動化による浄化についても取り組んでいます。</p> <p>・中央排水路の河川指定については、利根川放水路の具体的な施設計画の詳細な検討を行ったうえで、必要に応じ関係機関と調整を図ります。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
11	60歳以上	男性	千葉県	我孫子市	<p>田中、菅生調節地の耕作者に水害補償を考えて下さい。田中調節地に約1000ha、菅生調節池に約520haの土地改良事業完了した優良農地が存在し、生産力も高く地域農業生産力の中心となっております。しかし、昭和30年以降14回も溢流による被害を受けております。越流水深1m以上が5回もありました。田中、稲戸井、菅生調節池は治水効果が高く、現状でも合計1億800万m³の調節容量があり、洪水量約5千m³のピークカットを行っていると言っています。ダム等より効果的であり(思う)、10年のうち9年間は豊かな農産物を生産し、地域経済を活性化しております。田中、菅生調節池には全く水害補償制度がなく、耕作者は大変な損害を被っており、地価は大変安くなっております。今度の整備計画で田中地区の越流堤450mが上流に移転され、1200mに拡大されるとうわさでお聞きしました。水害補償制度を確立され、耕作者の了解理解を得てください。</p>	<p>・補償制度を確立して、耕作者に了解を得てください。</p> <p>・一切賠償の要求をしないという確認書を、河川管理者に出しているわけです。戦後の非常に混乱した時代に出したので、それを見直していただきたいというのがあるわけです。</p> <p>・河川整備計画の考え方に示されたことに対する疑問点、問題点に対して公述したいと思います。</p> <p>・現在の取手地点の流下能力をどのように考えているか。</p> <p>・現施設でどのくらいの安全率が取手にあるのだろうか、布川にあるのだろうか。そこら辺を、きちんと皆さんに知らせる必要があるんじゃないかと。</p> <p>・今日は取手で稲戸井調節池の話が出ましたが、田中、菅生の越流堤移設が問題になっているわけで、稲戸井調節池の掘削同様、本当に現実的で科学的な説明をしていただきたい。</p> <p>・最小限度の費用で最大の効果がある治水計画を立てていただきたい。</p>	<p>鬼怒川合流点下流の利根川右岸側にある田中調節池は、周辺にある稲戸井調節池及び菅生調節池と一体となって洪水を調節することを目的として整備されているものです。調節池内は一部の水路敷を除いて民有地でしたが、昭和21年自作農創設特別措置法により国営開拓地区の指定を受け、昭和23年に国が買収し、県による代行開墾による耕地建設が行われ、その後入植及び地元増反者を対象に、再び民地として払い下げられた経緯があり、農地の溢水に関しては、既に補償済みです。</p> <p>利根川本川及び江戸川の河川整備計画においては、早期に治水安全度の向上を図るため、計画期間を概ね30年間とし、現状の治水安全度(利根川上流部において概ね1/30~40、下流部においては概ね1/10~20)を考慮し、概ね50年に1回の確率で生起すると予想される洪水を安全に流下させることを目標と考えています。</p> <p>利根川水系においては、上下流の治水バランスの状況、限られた期間における大幅な河道掘削の実現可能性等を考慮し、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく行うことが必要であると考えています。</p> <p>利根川本川の現在の流下能力については、第4回有識者会議の資料でお示ししましたが、今後とも必要なデータを分かり易くお示しするよう努めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
12	60歳以上	女性	東京都	葛飾区	<p>渡良瀬川・新赤麻橋東の鷹見台。此処に立って見る、見渡す限りのヨシ原。初夏にはカッコウやヨシキリの声を乗せて吹き渡る風がいくつもの緑の波をうねらせ一日中見ても飽きることがない実に魂の安らぐ風景です。この第2調節池に500万m³の治水目的の掘削が行われという。第2調節池は遊水池の中で最も自然豊かな場所であり、此処が大規模に掘削されれば①ヨシを始めとする植物が貴重種も含めて絶滅する。②植物が失われれば東日本で最大の越冬地とされる渡良瀬遊水池の中で第2調節池で営巣するワシタカ類の生息が困難になる。治水を目的とするならば渡良瀬遊水池全体で約1億7千万m³という十分な大きさの治水容量がすでに確保されている。生き物すべてにとってかけがえのない自然を不要な工事で破壊することは許されない。</p> <p>③地下水面まで掘削すれば周辺の地下水を引き寄せて周辺市町の地下水利用に支障を与える。</p>	<p>・渡良瀬遊水池の大規模掘削工事の計画に反対の意見を述べさせていただきます。</p> <p>・第2調節池に500万m³の治水目的の掘削が行われると聞きました。当然ヨシをはじめとする貴重な植物、昆虫、ほ乳類、その頂点にあるワシ・タカ類の生息の場が失われてしまいます。</p> <p>・豊かな湿地である第2遊水池は、湿地であるがために生物多様性を維持しています。今、日本各地の貴重な湿地が減少しているとき、あえて必要のない工事で、この貴重な環境を破壊するのは好ましいことではありません。</p> <p>・私たちはかけがえのないこの渡良瀬遊水池の自然を未来の世代に手渡すために守っていきたいのです。</p>	<p>渡良瀬遊水池は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水池で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るという、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水池は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
13	40代	女性	東京都	小平市	<p>半世紀以上も前に計画されたハツ場ダムは、今や、利水上、治水上の必要性を失っており、ダムサイト岩盤の脆さ、ダム湖周辺が地滑りの危険性の高い地質であることを考えると、無謀とも言える事業である。</p> <p>利根川流域6都県の一最大給水量は、この12年間で1割も減少しており、節水機器の普及や人口の減少で水余りはさらに進行する。実際この20年以上、断水に至るような事態は起こっていない。</p> <p>ハツ場ダム建設の前提となる基本高水流量22000m³/秒はきわめて過大な数値であり、1947年のカスリーン台風(17000m³)以降は1万m³そこそこの洪水しか起きていない。しかも、吾妻川上流域の気象は長野県型で、利根川本流域とは雨の降り方が異なるので、カスリーン台風の再来計算でもハツ場ダムの治水効果はゼロだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハツ場ダムにより環境破壊と大きな災害を招く危険性があることを指摘したい。 ・吾妻渓谷の一带は、浅間山の噴火で流れ出した岩屑なだれという土砂が堆積しており水を含むと崩れやすく、地すべり跡も残っている。 	<p>・ハツ場ダムは、吾妻川下流及び利根川本川下流の洪水被害の軽減を図り、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持するための流量の確保するとともに群馬県及び下流都県の新規都市用水の確保することを目的として、利根川水系吾妻川(群馬県吾妻郡長野原町)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>洪水時には、ダムサイト地点で最大2,400m³/sの洪水調節を行い、吾妻川流域及び利根川本川流域への洪水を軽減します。</p> <p>・また、ハツ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>・ハツ場ダム建設にあたっては、周辺自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策を実施するとともに、周囲に国指定の名勝で観光スポットでもある吾妻渓谷があることから景観などにも配慮しつつ整備を進めます。</p> <p>・また、カスリーン台風では、吾妻川上流にあまり雨が降らなかったため、吾妻川上流にはたくさんの雨が降った場合と比べてハツ場ダムの効果は小さくなりますが、過去の例を見ても雨の降り方は様々であり、現在、利根川本川の洪水防御を目的として洪水を調節する施設がない吾妻川流域でハツ場ダムを建設することが、利根川の治水上、必要であると考えております。</p> <p>・上記を踏まえ、ハツ場ダムの事業については早期に完成させ、その効果を発現させる必要があると考えております。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					<p>6都県で進行中の住民訴訟の中では、データに基づき次々と問題点が明らかになっている。本体工事に入る前に、事業中止の英断をするべきだ。</p>	<p>・草津の中和工場で石灰を流し込み、その中和物を品木ダムで沈殿させているが、品木ダムも約8割が堆積して、浚渫が追いついていないのではないか。</p> <p>・鹿飛橋周辺の一番の名勝地もダムにせき止められてしまうと、岸壁の美しさが失われてしまう。</p>	<p>・ハッ場ダムサイトの地盤について、これまでの地質調査からダム基礎となる部分は十分な強度を有する岩盤であることが分かっています。ハッ場ダム貯水池の地すべり調査について、平成8年度から平成12年度までの間、地質や地すべりの専門家からなる「ハッ場ダム貯水池周辺地盤安定検討委員会」を設置して、貯水池周辺の地すべりや地質について調査、検討を実施し、安全かつ合理的な地すべり対策の計画案を作成しています。地すべり対策が必要と判断された2箇所については、押さえ盛土工により対策を講じることとしています。</p> <p>・品木ダムでは、浚渫、盛土処分及び貯砂ダムによる堆砂対策を引き続き実施していくとともに、中和効率の向上対策及び中和生成物の有効活用について、引き続き調査・検討を行っていきます。</p> <p>・吾妻峡においては、川の両岸に切り立った地形が発達していますが、中小規模の洪水時に冠水する高さは、ダムの供用前後で大きな変化は生じないものと予測しています。したがって、出水による植生への攪乱の影響の変化は小さく、ダム完成後においても現況とほぼ同様な状態が維持されると考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
14	60歳以上	男性	栃木県	小山市	<p>私達の住んでいる地域は、思川や巴波川に囲まれているため、台風の季節になると、毎年のように河川が増水し、利根川や渡良瀬川からの影響による洪水に不安を募らせて生活しております。近年は異常気象により、各地で大きな災害が発生しておりますが、この地域も平成10年の台風では、警戒水位を超え避難勧告が出され、平成14年の台風では、危険水位を超え、堤防の漏水等も発生し、破堤する可能性もある危険な状況でした。利根川や渡良瀬川からの影響による洪水を減少させるため、渡良瀬遊水池第2調節池については、掘削による治水容量の確保と堤防強化、思川・巴波川においては、河床掘削による流下能力を増強するとともに堤防強化が、地域住民の永年にわ亘る悲願であります。</p> <p>また、整備においては、渡良瀬遊水池や思川・巴波川などの自然の景観や環境保全、遊水池の湿地の再現にも十分配慮した計画にさせていただきよう併せてお願い致します。</p>	<p>・平成17年9月15日、小山市、野木町、藤岡町の住民が、水害の危険を少しでも安全で安心して生活出来る地域にしようと、治水事業を促進するための協議会を発足させました。</p> <p>・まず最優先に行うことは治水対策事業を進めていくことです。</p> <p>・現在、会員を対象に、国、県に対する要望書の署名活動を行っております。</p> <p>①渡良瀬遊水池第2調節池におきまして、掘削による治水容量の確保と共に昔の湿地の再生を行い、掘削土による思川、巴波川の堤防の強化をお願い致します。</p> <p>②思川、巴波川におきましては、河床掘削による流下能力を増大させることをお願い致します。</p> <p>・我々が生活している地域の安全と共に、首都圏を守るという大前提もありますので、利根川水系の治水工事、第2調節池の整備を早急に実現できますようお願い致します。</p> <p>・整備に当たりましては、渡良瀬遊水池の広大なヨシ原や、思川、巴波川など周辺河川の自然の景観や環境を保全、遊水池の湿地の再生にも十分配慮した計画にさせていただきますようお願い致します。</p>	<p>渡良瀬遊水池は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水池で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るという、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水池は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
15	60歳以上	女性	群馬県	板倉町	<p>重い歴史を持つ渡良瀬遊水池は、過去にいくつもの大規模土木工事が行われ、歴史的景観やすばらしい自然がその都度大きく損なわれてきました。特に谷中湖建設は、その場所にあったオバケ沼といわれた大きな水面、周辺の雄大な自然、動植物の宝庫を失わせ、今はコンクリート護岸で囲まれた人工的な水面と化してしまっています。コンクリート護岸に加え、渡良瀬川最下流の水をためることもあり、藻類の異常増殖による水質の悪化もひどく、その改善対策としてさらなるヨシ原浄化地など人口的につくっていますがその効果はあまり期待できないものです。冬場の谷中湖干し上げも藻類の増殖の時期をずらすだけではないかと思われまます。次の土木工事として「治水容量増強」の名のもとに別の場所の大規模掘削計画があると聞き、すでに谷中湖で充水な治水容量があるのに、これ以上自然破壊は進めてほしくありません。</p>	<p>・渡良瀬遊水池全体の治水容量は、既に1億7000万立方強という大きな容量があり、しかも過去の50年間で最大の洪水の時でもその容量の6割以上は空いていたという事実を踏まえますと、これ以上の掘削の必要性は全くないのではないかと考えております。</p> <p>・特に、第2調節池にはフクロウやチュウヒ、ワシ・タカなどの鳥や、動植物が豊かに息づく場所で、それぞれの絶滅危惧種も生息していると言われております。</p> <p>・掘削よりも、湿地を回復させ、豊かな自然を観光資源に、「自然と歴史の野外博物館」というようなイメージにすれば、他のどの町でもまねのできない遊水池の周辺の町おこしとなって、人も動植物も共生する道が開けるのではないのでしょうか。</p> <p>・かけがえのない遊水池を大事にして、共に生きる方向を目指していただけたらと、是非国土交通省にお願い致します。</p>	<p>渡良瀬遊水池は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水池で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るとい、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水池は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
16	60歳以上	女性	東京都	小平市	<p>①近年、集中豪雨による都市洪水が頻発し死者まで発生しています。都市化によって降る雨の大半は地中に浸透することなく下水に捨てられ、地下水を滋養するどころか、都市洪水を引き起こしているのです。今日こそ雨水を資源として見直し、雨水を貯めて活用する施策を実践するのは、都市の治水から急務であるのではないのでしょうか。</p> <p>② ①の施策を推進することにより、節水効果が高まり、水道使用量は減少し、保有水源での水余りは加速するはずで、都市洪水を抑制し防災に強い町づくりに効果的でしょう。</p> <p>新しい水源の開発をせずとも、水質のよい地下水を大切に使用し、既存の保有水源を有効に活用することこそ選択すべき東京都の水政策ではないでしょうか。</p>	<p>○身近に小さなダムを持って自前の水源としようという運動に関わってきた</p> <p>○新規水源開発は要らないという立場から総合治水対策について、多摩地区の地下水利用について意見を述べる</p> <p>○都市の雨のうち下水道に流される雨水を省みることなくハッ場ダムに水源を求めるのは不合理である</p> <p>○舗装面積の増大と緑の喪失による流域の保水機能の低下によって、今後も都市洪水の発生は避けられない都市構造となっているため、流域の市街地と河川を一体にした雨水の流出を抑制する施策が必要である</p> <p>○流域に降った雨を貯留し、せせらぎをつくり、大地に浸透させ、大気に蒸発散させ、健全な雨水利用を取り戻す施策に取り組んで解決を図る</p> <p>○健全な雨水循環を実現するための具体的施策や法律が整備されていない</p> <p>○一般家庭での雨水タンクの設置は、水道の使用量を削減し、雨水の下水道に流出時間を遅らせる</p> <p>○大規模ダムに依存しないで、雨水タンクの設置など身近な対策は省エネルギーやCO2の排出削減の目標を達成する近道である</p> <p>○地下水は河川水に比べるとトリハロメタン濃度が少なく、おいしい水である</p> <p>○ハッ場ダムができると地下水は河川水に切り替えられる計画で、東京都は現在供給している地下水一日40万トン保有水源として認めていない</p> <p>○東京都は地下水を計算に入れなくても、矢木沢ダム等により一日623万トン保有し、最近は一日500万トンしか供給しておらず水余りである</p> <p>○節水意識の高まり等で、水需要は年々予測を下回り、水余りは誰の目にも明らかである</p> <p>○ハッ場ダムによる地下水から河川水への転換計画は時代錯誤である</p> <p>○地下水を守って、水源自立都市を目指すことが目指すべき道である</p>	<p>都市用水の水源確保については、各自治体がそれぞれ工夫しながら取り組まれているところです。頂いたご意見につきましては、関係自治体にも紹介させていただきます。</p> <p>ハッ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。また、利根川から取水された水は首都圏2,750万人の飲み水として利用されています。利根川水系全体では、不安定取水が2割を占め、2～3年に1回の割合で渇水が発生する状況にあります。特に近年では、小雨と多雨の変動幅が大きくなっており、ダムによる調節が不可欠となっています。このため、ハッ場ダムの建設により安定取水の確保に努めるとともに、吾妻峡の渇水時の流況改善のため2.4m³/sを確保します。</p> <p>地下水については、依然として関東平野北部を中心に地下水の汲み上げによる地盤沈下が発生する等の問題が生じており、これらを踏まえた各都県の水需要の計画に基づき「利根川水系及び荒川水系における水資源開発基本計画の全部変更」(案)が策定されているところです。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
17	50代	男性	千葉県	市川市	<p>私は千葉県が設置した三番瀬再生計画検討会議、三番瀬再生会議の委員を務め、現在は「生物多様性ちば県戦略」策定のための専門家会議に市民委員として出席しています。千葉県にとって大切な自然環境である三番瀬、江戸川、印旛沼等の環境を保全再生し、さらに生物多様性を守っていくためには、「利根川水系河川整備計画」が環境省の定めた「生物多様性国家戦略」、1997年の改正河川法に示された環境重視の姿勢と住民意見の尊重、2000年河川審議会答申である「氾濫を許容する治水理念」を十分に尊重したものでなければなりません。しかし、現計画案は</p> <p>①環境を疎かにしている</p> <p>②住民の意見が吸い上げられない可能性がある</p>	<p>■生物多様性国家戦略にのっとり環境整備や生物の保全を進めることを整備計画に書き込む ○生物多様性国家戦略の中の危機として開発による破滅とあるが、ダム建設は進めている</p> <p>●公共事業を進めていくに当たって市民の意見を聞きながらやっていく時代で、河川法も改正された中で、国交省が元の形に戻ろうとしているんじゃないかと危惧している ■淀川の流域委員会のように流域住民、専門家、行政が意見をぶつかり合わせていい計画をつくることを提案する</p>	<p>利根川水系河川整備計画の検討に当たっては、利根川流域の歴史及び文化などの地域特性も踏まえて、治水・利水・河川環境を一体的に捉え、それぞれの目標が調和しながら達成されるよう、総合的な視点で検討していきます。</p> <p>特に、1997年の改正河川法の主旨を踏まえ、河川のみならず必要に応じて河川周辺環境も把握したうえで、利根川の渓谷、高水敷、遊水地、湿地、礫河原、湖沼、干潟、ヨシ原など良好な景観を有し、多様な動植物が生息・生育・繁殖する豊かな自然環境の保全・整備に努めます。</p> <p>また、流域の自然的、社会的状況を踏まえ、河川環境の保全と整備が適切に行われるように、関係機関との調整を図りながら実施します。</p> <p>利根川水系河川整備計画は、平成19年11月27日に決定された第三次生物多様性国家戦略の生物の生息・生育環境の保全・再生、水環境の改善、住民との連携・協働、河川を活用した環境教育や自然体験活動、河川環境に関する調査研究などの内容を踏まえ、検討していく考えです。</p> <p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示するとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					<p>③印旛沼経由の新利根川放水路計画が県の印旛沼再生計画と不整合である</p> <p>④新行徳可動堰建設が絶滅危惧種ヒヌマイトンボ、絶滅の恐れのあるトビハゼ地域個体群を消滅させる恐れがあり、これらの理由から現計画案を認めることができません。</p>	<p>■印旛沼放水路計画は机上の空論である ○印旛沼流域水循環健全化会議が動いていて、印旛沼を再生させようとしている ○河川整備計画では、長門川の現況流下能力92m³/sに対して500m³/s、印旛捷水路は120m³/sに対して500m³/sにしなければならないが、印旛沼の掘削は印旛沼の再生、水草の再生、生き物たちを呼び戻すことを不可能にしてしまう。 ○国交省は印旛沼の水を滞留させずに常時印旛沼へ導水することを検討しているが、健全化会議の考え方は流域の湧き水の涵養等の水循環の再生である</p> <p>■行徳可動堰の改修 ○河川整備計画では4,000m³/sであるが基本方針では6,000m³/sであるので、堰改修は手戻りも考慮して6,000m³/s対応にすると思われるが、直上流のヒヌマイトンボの生息しているヨシ原や直下流のトビハゼに配慮をお願いしたい ●河川整備計画あるいは河川整備基本方針は、生物多様性国家戦略にバッティングしている</p>	<p>利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。また、分派した洪水を印旛沼内に滞留させないことにより、植物プランクトンの増殖が抑制されるなどの水質改善の効果も期待されます。 今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p> <p>行徳可動堰は建設から50年が経過しており、ゲートの腐食や機械設備等の老朽化が問題となっています。行徳可動堰は治水・利水上重要な施設であるため、河川整備計画の策定状況を踏まえながら早期に対策を実施したいと考えています。 ヒヌマイトンボやトビハゼへの配慮については、行徳可動堰の構造の問題や環境への影響、水源の確保等さまざまな課題について検討したうえで実施していきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
18	60歳以上	男性	東京都	杉並区	<p>水門設備工事の談合事件で国土交通省が、中央省庁としては初めて「官製談合防止法」の適用を受けることになった。職員の天下りのために国民の血税を無駄遣いしたという悪質な犯罪だ。このような犯罪を生む土壌が国交省にはあると思う。目的達成のためには費用の問題は二の次と考えているのだ。</p> <p>今回の河川整備計画も、同じ土壌の上で策定作業が進んでいるのではないか。有識者会議を2度傍聴したが、提出された資料には、担当者が必要と考えるメニューがずらずら並んでいる。それらの実施に必要な費用については全く説明がなく、その点を質した有識者もいなかった。1円の血税も無駄にはできない時代だ。限られた予算で達成できる、真に有効な事業だけを盛り込んだ整備計画にする必要がある。</p> <p>そうした整備計画を策定するには、何が必要なのか。納税者の立場から公述したい。</p>	<p>・建設省というのはどういうことをする役所なのかということを知っています。また、税金の使い方には大変強い関心を持っています。そのような立場で、利根川水系の河川整備計画について注文をしたいと思っています。</p> <p>・それでは一体国土交通省は何を今度の整備計画でやろうとしているのでしょうか。それは今既に計画中だったり、事業が始まっていたりする巨大な事業に、新しい河川法のお墨付きを与える。それでもって認知させる。</p> <p>・このままでいくと大変おかしな整備計画になると思います。</p> <p>・私は2つ注文があります。</p> <p>①費用を必ず明示してもらいたいということです。</p> <p>②このような建設官僚の暴走をチェックするには、市民のチェックが必要だと思います。</p>	<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
19	60歳以上	女性	千葉県	佐倉市	<p>印旛沼を眼下に臨み、おいしい地下水を飲みこれらを次の世代に引き継ぎたいと考えている流域住民として、意見を述べる。ハツ場ダムについては、半世紀以上も前の計画であり治水、利水面においてすでに必要性のないところは、データが示す様々な社会状況からも明らかである。</p> <p>印旛沼を使った新利根川放水路計画については、利根川下流部の洪水10500m³/秒のうち、1000m³/秒を印旛沼を経由して東京湾に落とすというものである。印旛沼は自然域の洪水処理でさえ不十分で流入河川沿いの民家では、度々浸水被害が起こっている。この計画実現には、印旛沼の大規模掘削、大水路の開削が必要だが、地域の歴史も含めた状況、環境面に及ぼす影響、事業費等の検証が示されていない。 必要のない事業に多大な税金を注ぎこみ、次の世代に負の遺産をこれ以上残すことは絶対に許されない。</p>	<p>●後世に禍根を残さない河川整備計画の策定を求める</p> <p>■ハツ場ダムについて</p> <p>○治水では、人口減少などにより水需要は縮小し水余りの時代に入っていく</p> <p>○ハツ場ダムの夏場の治水容量は2,500万トンしかなかく夏の治水対策には役にたたない</p> <p>○治水では、八斗島22,000m³/sであるが最近50年間の最大は10000m³/sを超えていない</p> <p>○事業費は当初の2110億円から2.2倍の4600億円で総事業費5850億円にもなり、起債の利息も含め8800億円が国税、県民税、水道料金としてのしかかってくる</p> <p>■利根川放水路について</p> <p>○1000m³/sを流下させるには約10倍の流量を流下させるため水路の大幅拡幅、大掘削、堤防の嵩上げ、何千戸の家屋の移転や自然環境も改変される</p> <p>○渡良瀬遊水地、利根川河口堰、印旛沼、霞ヶ浦開発等の現場を見学して、必要性に疑問を感じた</p> <p>○利根川河口堰ではシジミの大量死、霞ヶ浦導水事業では霞ヶ浦の水質が劣悪のため、利根導水路は試験通水時にシジミの大量死が起きたため再試験通水もできない</p> <p>○限られた予算の中で、最大の治水効果のあるもの、確実に氾濫の防止に寄与するものを選択しなければ、利根川の自然は大きく損なわれ、次の世代に莫大なツケを残す</p>	<p>ハツ場ダムは、吾妻川下流及び利根川本川下流の洪水被害の軽減を図り、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持するための流量の確保するとともに群馬県及び下流都県の新規都市用水の確保することを目的として、利根川水系吾妻川（群馬県吾妻郡長野原町）で建設を進めている多目的ダムです。洪水時には、ダムサイト地点で最大で毎秒2,400m³の洪水調節を行い、吾妻川流域及び利根川本川流域への洪水を軽減します。また、1都4県（東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県）の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給します。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s（約50%）が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>ハツ場ダム建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策を実施しています。また、周囲に国指定の名勝・吾妻峡があることから、景観などにも配慮しつつ整備を進めています。</p> <p>河川管理者としては、今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、ハツ場ダムを早期に完成させ、効果を発現させることが必要であると考えています。</p> <p>昭和55年に改訂した工事实施基本計画において、八斗島地点における基本高水のピーク流量は、1/200確率流量と観測史上最大流量のいずれか大きい値として、22,000m³/sと決定されています。</p> <p>平成18年2月に河川整備基本方針を策定するにあたっては、昭和55年以降の年最大流量と年最大降雨量の経年変化、流量確率による評価、既往洪水による検証流量との比較の観点から更に科学的に検証を加え、22,000m³/sが妥当であると判断されています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
							<p>八ツ場ダムの事業費は4,600億円となっておりますが、治水面において、利根川の洪水被害を軽減する効果に鑑みて十分にその投資に見合う効果が期待できると考えています。加えて、治水・利水の両面における問題解決の緊急性を考慮しても、八ツ場ダムを早期に完成し、確実にその効果を発揮させることが必要と考えております。</p> <p>今後の河川整備計画の検討の過程においても、その費用対効果や必要性について明らかにしていきたいと考えています。</p> <p>利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけでなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。(また、分派した洪水を印旛沼内に滞留させないことにより、植物プランクトンの増殖が抑制されるなどの水質改善の効果も期待されます。)</p> <p>今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p> <p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってまいりました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺ってまいります。</p>

■ 整備計画の策定方法は、流域住民の意見が反映される場を設け、国交省と住民の双方向での議論ができるよう公開討論会の開催を強く求める
○ 住民の意見を公聴会で聞き置くのみでなく、双方向の議論の場を設けてほしい

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
20	50代	女性	千葉県	松戸市	<p>松戸は江戸川の左岸に位置し、江戸川の水を水道水として利用しています。松戸の緑地が年々減少する中で、今では江戸川の水質と河川敷は緑地として大切な役割を担っています。そして松戸にとどまらず、河川と河川敷、さらには川沿いの丘陵に沿った斜面林が美しい景観をつくり、上流から下流へと連綿として続いている大切な自然の財産だと思えます。ですから自分たちが水に困らないように、洪水に合わないようにと、はるか遠くにダムを作ってその地域の美しい景観と生態系を破壊する事は、その暮らす人々に対しても、未来世代に対しても許されない事だと思えます。私は「まつど雨水の会」で「遠くのダムより近くのミニダム」を合言葉に、大型ダムに頼らず、内水被害をもたらす集中豪雨対策にも、地域に降った雨水は貯留して利用・浸透させていこうと呼びかけています。その方が、巨額の税金を投入して大規模なダムやスーパー堤防を作るよりも賢い選択です。</p>	<p>・公述会の説明について時間を割いている、必要であれば、別の日を設けてほしい。</p> <p>・淀川水系で行われたように上流から下流まで幅広い住民の代表が参加する利根川流域委員会をつくって下さい。</p> <p>・官、民、産、学全ての力を合わせて利根川流域の美しい国土とそこに暮らす私たち流域住民の生活をまもっていきましょう。</p>	<p>利根川水系においては、沿川の土地利用の高度化等の社会的状況、大幅な河道掘削による河川環境の改変や将来河道の維持を考慮すると、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく行うことが必要であると考えています。</p> <p>今後、上記の計画期間で目標を達成するための具体的な整備内容を、河川整備計画のたたき台においてお示ししていきます。</p> <p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
21	60歳以上	女性	茨城県	古河市	「谷中湖の干し上げ又もすると言う よろず生き物 声なき声す」 「釣り人はもの悲しげにぼつり言う 何ですのかあの干し上げは」 谷中湖をコンクリートでかためたことも、干し上げも水の浄化とは程遠い存在です。良いと思ってしたことでもマイナスになることもあります。過去に学んで、住民とも手を握ってほしい。官民一体となってこそ「水」清らかな美しい日本が夢ではなくなると信じます。	※当日、体調不良のため急きょ欠席された。	渡良瀬遊水地は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るとい、治水上重要な役割を果たしている場所です。この渡良瀬遊水地は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。
22	40代	男性	千葉県	松戸市	今後の公共事業では、関係する住民の合意と理解が重要になる。とくに河川整備事業は、流域住民の生活への影響が大きいことから、単に整備にかかわる情報を提供するだけでなく、多様な立場の流域住民による協議の場を設け、事業が進められるべきと考える。 現況では、流域懇談会などがあるが、地域的に分散したもので、流域全体を視野においた「協議の場」になっているとは思えない。 河川法には整備計画策定における「住民意見の反映」が規定されているが、整備事業の実施においても住民意見を反映する仕組みが求められ、それは流域単位の広がりを持つ「協議の場」である必要がある。 以上の理由から、河川整備計画に、学識者、漁業関係者、河川関係のNPO、地域団体関係者、流域自治体職員などで構成される「河川整備流域協議会(仮称)の常設」を盛り込むよう求める。	・河川の事業というのは非常に改変する規模が大きいため、そのことが地域に及ぼす影響というのかなりあると思いますので、私は互いが理解する場を設けていくということが非常に重要だと思います。 ・河川事業の大きなものについては、やはり流域全般に視野を置いた協議の場というのが必要だと思います。勝手に「河川整備協議会」なんていう名前を仮称で、この公聴会に応募する時につけたんですけども、そういう協議の場を設けることを是非今回の計画の中で検討していただきたいと思っています。何か工夫をして、是非こういう協議会をつくっていただきたいと思っています。	豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。 このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。 利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってまいりました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
						<p>・特に公的な資本については、人口減の社会になってきますから、それらがどういうふうに適正に配分されているかというのは非常に大きな課題になります。今回の整備計画の年限ぐらいの間に、相当社会の状況が変わると思います。それらに対応できるような考え方というのを整備計画の中にはっきりと盛り込んでおいた方がいいと思います。</p>	<p>利根川水系の流域の状況や現状の安全度を考慮すれば、今後も治水対策を進める必要があると考えています。</p>
23	50代	男性	群馬県	藤岡市	<p>下久保ダムの利水容量の振替の問題点について 1. 昭和43年ダム完成による水没移転による過疎化防止及び生活再建対策への悪影響について。 2. 官民の協働の観光振興と生活再建対策への大きなダメージについて。 3. 水位低下による土砂が与える斜面景観及び湖面への大きなダメージについて。 4. 湖の斜面の堆積土砂の流出が与えるダム下流特に国指定名勝及び天然記念物「三波石峡」及び水棲生物へのシルトによる環境悪化について。 5. その他</p> <p>以上の件について、口述を希望します。</p>	<p>・このたびの利根川水系河川整備計画につきまして、絶対反対の立場から意見を陳述させていただきます。 ・下久保ダムを洪水調節用ダムに特化するという今回の計画には、当時の建設目的、あるいは理由、説明と全く違うものです。こうしたことから、この計画案に、絶対反対です。</p> <p>・河川整備計画の情報公開といいますが、このやり方につきましても、ほとんど一般の方々にこの河川整備計画が知られていない。この河川整備計画なるものを、上流、下流の住民皆さんによく知っていただくような方法をとるべきだというふうに考えています。</p>	<p>利根川上流ダム群再編事業は、利根川流域全体のバランスの良いダム及びその機能の配置を再構築するための調査・検討を行っているところであり、既存ストックの有効活用の観点から、利根川の上流ダムをどのように活用できるか、引き続き調査・検討を進めていきたいと考えています。 本事業の検討にあたっては、利水者への影響と地域活性化や景観などの観点から、地元のご意向も十分に把握しながら検討していきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
24	60歳以上	男性	栃木県	野木町	<p>①「河川整備計画」策定のプロセスについて 計画策定の諮問機関には、河川法が定めている住民代表を外しています。有識者会議は議論による合意形成の場になっていないと聞きます。議論の公平と民主的運営を確保し、ゼネコンへの奉仕にならないためにも、計画策定のプロセスを形骸化させない改善を望みたい。そのうえで審議の進捗に沿った公聴会での議論を望みたい。</p> <p>②渡良瀬遊水地に関して マスコミ報道では、国交省は治水目的で遊水地・第2調節池の掘削をすでに明言し、助走し始めています。いま動植物の宝庫であり、日本最大のこの遊水池を人類の英知であるラムサール条約登録地実現へ向けた取組を展開しています。勿論、自然環境と「共水」を両立させて末代まで保持していくためです。国交省は是非、この条約登録地実現を念頭に計画策定に当たることを望みたい。</p>	<p>・国交省の河川整備計画を策定していくプロセス、つまり委員の選任や会議の運営などは民主的ではないのではないかということです。</p> <p>・有識者会議を錦の御旗に、公聴会は開きました、そこで住民である皆さんの意見を聞きましたという聞き置だけの公聴会にはなりません。大事なことは、住民も参加した議論の場が必要だということです。</p> <p>・国土交通省は、思川などの洪水対策として、渡良瀬遊水地の第2調節池を掘削する計画を再び持ち出しています。これに対し、住民の方から、下流の堤防強化、思川など支川の川底を掘削した方が有効であると提言しています。この提言に国土交通省は耳を傾けるべきではないでしょうか。</p> <p>・第2調節池の掘削も無駄なダム造りと同じですが、これを防ぐためにも、また、公平で科学的なデータで議論するためにも、そして行政の言いなりを監視するためにも、住民を計画策定の場に参画させるべきです。</p>	<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p> <p>渡良瀬遊水地は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県の4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るといふ、治水に重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水地は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
25	60歳以上	女性	東京都	葛飾区	<p>渡良瀬遊水池の雄大な葦焼きを何度か見るたびに血おどり身のひきしまる思いです。あの後に新しい命が芽生えるというドラマはすばらしいと思います。この雄大な葦原は私ども国民の貴重な財産です。コンクリートに囲まれてすっかり人工的になってしまった谷中湖のあたりはすばらしい自然の宝庫でした。利水の必要がなくなったと言われる今、これ以上の破壊をなくし、次の世代に自然のすばらしさを伝える勉強の場として残したいと切に思います。最小限度に手を加えることによって、水辺の自然とはどういう物か、より良い飲み水を下流住民に供給する為に国土交通省が苦勞したヨシ原浄化施設とその効果、環境問題の勉強そして今までにつながって来た歴史、国土交通省も住民も市民運動の人たちも智を出し合ってこれ以上の自然破壊を進めない為に力を出し合いたいと思います。大規模掘削事業には反対です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・治水容量の増強ということで、大規模掘削事業が浮上してきましたが、既に、1億7000万m3を超える大きな治水容量が確保されている遊水地に、その必要があるのでしょうか。これ以上の自然破壊は進めるべきではありません。 ・私たちの世代でこの谷中湖の問題を解決し、次の世代に残してはいけないと思います。 ・次の世代に向けて渡良瀬遊水地をラムサール条約湿地への登録を実現し、私たち国民の財産として管理し、保存していただきたいと思います。ぜひご協力をお願い致します。 	<p>渡良瀬遊水地は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るという、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水地は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
26	60歳以上	男性	茨城県	古河市	<p>渡良瀬遊水地の治水機能と自然保護のあり方について意見を述べたい。私は遊水池の下流、三国橋近くの堤防近くに住んでいる。日頃からその治水効果については大きな関心を持ち、今まで水害に会うこと無く無事に過ごして来られたことに感謝している。一方遊水池の整備も含め、今までの治水対策は一方的に自然環境を犠牲にして行われてきたように思えてならない。人の命と財産を水害から守る治水対策は決して疎かに出来ないが、同時にそこに生息する生き物と共生出来る対策であるべきものと思う。少なくとも遊水地のレッド・データ搭載種(野鳥36種、植物49種、昆虫18種、淡水魚2種)の生息を損なうような治水対策であってはならない。改正河川法には治水・利水に加え「河川環境(水質・景観・生態系)の整備と保全が謳われている。種の保存法・環境基本法なども整備されている。法の理念に基づき、自然保護と両立した対策を工夫すべき。工夫すれば出来る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・渡良瀬遊水地の治水対策と自然保護のあり方について意見を述べたい。 ・干し上げに効果があるかどうかは別にして、下流での取り水が薬剤などの投入によりカビ臭が出ないのであるなら、干し上げはすぐにでもやめるべきだと思います。 ・谷中村は漁業の村であったのですから、谷中湖を漁業資源を生み出す湖に造り替えたらいと思えます。 ・渡良瀬遊水地をそのままそっくり自然博物館にして、地元が潤う方策を考えてみたら良いと思えます。 ・工夫をすれば治水と両立させてできると思えます。 <p>・治水を考える上で、渡良瀬遊水地に流入する各河川及び下流に当たる各河川それぞれと整合性のある計画を立てるべきだと思います。それが最小の経費で最大の効果を上げることにもなるのではないのでしょうか。</p>	<p>・渡良瀬遊水地は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るといって、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水地は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p> <p>・利根川水系河川整備計画においては、概ね50年に1回の確率で生起すると予想される洪水流量(支川は30年)を対象にして、上下流や本支川のバランスを確保しつつ、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく実施することにより、効率的な治水計画を策定することとしております。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
27	60歳以上	男性	埼玉県	所沢市	<p>○公共事業は、経済社会的効果、環境負荷を含めて、その与える影響は極めて大きい。一方、日本の財政破綻、環境破壊の進行、価値観の多様化を考えると、公共事業の計画策定・実施に当たっては従来の延長線上でなく、ゼロベースの見直しが不可欠であり、現行法の枠内で充分対応可能である。</p> <p>○計画策定上配慮すべき点は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済社会面から環境負荷に及ぶ必要性の科学低評価 2. 費用対効果の客観的評価 3. ゼロを含む複数選択肢の比較及び優先順位の設定 <p>○方法論として配慮すべき点は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報公開と住民参加・行政や限られた分野の学識経験者の知見では限界がある。情報公開を徹底した上で、広く住民・市民団体の意見を求めるべきである。時間がかかるなどの非効率性は、民主主義に伴うコストである。 2. 公正な競争・但し、安かろう・悪かろうを排除するための厳正なチェックの仕組みは不可欠である。 	<p>・利根川の計画について科学的評価が欠けている。水需要の減少傾向と供給力の乖離、治水上の効果があるのか、基本高水ピーク流量が妥当なのか、事業の根本に係わる科学的根拠が欠けている。</p> <p>・費用対効果について、ほかの選択肢とゼロベースの比較が不可欠である。</p> <p>・コスト軽減について、高い落札率がある。校正で開かれた競争をすべきである。</p> <p>・経済面以外の価値も重要である。環境負荷の軽減、生態系の保護、生物多様性条約、環境アセスについても形式的にやっているだけではないか。</p> <p>・住民参加の重要性について 現地住民と心のふれあいまちづくりといったお金に換算できない貴重な価値も考えてほしい。</p>	<p>利根川水系の河川整備計画の案の作成にあたっては、治水、利水、環境面の目標を達成するため、効率的に早期に所要の効果の発現が可能なメニューを検討するとともに、上下流や左右岸のバランス、実現可能性などを総合的に勘案しながら検討していきます。</p> <p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
28	60歳以上	男性	千葉県	香取市	<p>関東で最初に重要伝統的建造物群保存地区に指定された佐原の町並みは、利根川の水運と小野川による物資の集散によって成立した。小野川は佐原の町並みの景観要素としても、水運のための流路としても期待されるがそれには水質の向上が必須の条件である。</p> <p>利根川河口から40kmに位置する佐原は、河川感潮域に位置しており、利根川の水位変化や水質変化が小野川にも大きな影響を及ぼしている。昭和30年代、水道水に塩分が混じるほどの塩害に悩んだ佐原だが、昭和46年の利根川河口堰建設によって塩害の不安から解放された。しかし一方で河口堰の上流では利根川の水が停滞し、水質が悪化した。また潮汐の変化が小野川まで伝わらなくなり、小野川の水質の向上も妨げられている。</p> <p>佐原の町並みと小野川の再生のためにも、利根川河口堰の運用を見直し、水質の向上を図ることが期待される。</p>	<p>利根川の支川である小野川は佐原の町並みの景観要素としても、水運のための流路としても期待されるがそれには水質の向上が必須の条件である。</p> <p>利根川河口から40kmに位置する佐原は、河川感潮域に位置しており、利根川の水位変化や水質変化が小野川にも大きな影響を及ぼしている。昭和30年代、水道水に塩分が混じるほどの塩害に悩んだ佐原だが、昭和46年の利根川河口堰建設によって塩害の不安から解放された。しかし一方で河口堰の上流では利根川の水が停滞し、水質が悪化した。また潮汐の変化が小野川まで伝わらなくなり、小野川の水質の向上も妨げられている。</p> <p>佐原の町並みと小野川の再生のためにも、水質の向上を図ることが期待される。</p>	<p>・小野川においては、千葉県が管理しているため千葉県に意見、ご要望を伝えるとともに調整を図りたいと思います。</p> <p>・水質については、利根川本川のみならず支川なども含めた流域全体の社会要因に起因する汚濁負荷を受けるため、下水道事業などによる汚濁負荷量の削減をはじめとした流域の関係機関や地域住民などと一体となって水質環境基準の達成と更なる水質の向上を目指すとともに、引き続きモニタリングを行っていきます。</p> <p>・利根川河口堰は、塩害の防止を図るとともに都市用水及び農業用水の開発を目的として建設された施設で流域の水道、農業用水の安定的取水に寄与していますが、水位が安定したことに伴い小野川舟運が定常的に行うことができ、地域活性化にも寄与している面もあります。</p> <p>・利根川河口堰の操作は、流入量、河口の潮位等の自然条件に大きく左右され、これまで水産資源の保護を考慮しつつ、利水の安定供給のため塩害を防止する操作を行ってきました。今後も引き続き、この範囲内において、堰操作による水質改善や魚類の誘導放流についても検討していきます。</p>
29	50代	男性	埼玉県	新座市	<p>利根川下流域は、かつて香取の海と呼ばれる入り江であり、周辺には大湿地帯が広がっていた。利根川の東遷が行われた以後も、利根川下流域・霞ヶ浦は八郎潟や中海・宍道湖と並ぶ豊かな汽水域であった。しかし1963年に常陸川水門が、1971年には利根川河口堰が建設され、利根川下流域・霞ヶ浦の環境は一変した。淡水化によって汽水域を代表するヤマトシジミは姿を消し、ウナギなどの回遊魚も激減、ブラックバスやアメリカナマズなどの外来魚が優占するようになった。利根川河口堰の湛水域の水質は悪化の一途をたどり、2004年冬には大量の植物プランクトンが発生している。1997年に河川法が改正され、治水、利水に加え、水質・景観・生態系等を含む河川環境の整備と保全が目的に加わった。河川整備計画策定を機会に、常陸川水門、利根川河口堰の運用を改善し、利根川下流域・霞ヶ浦にかつての豊かな汽水環境を取り戻すべきである。</p>	<p>・利根川下流域の汽水環境の回復について</p> <p>利根川下流域は、霞ヶ浦、手賀沼、印旛沼とともに、かつて香取の海と呼ばれた入り江であり、周辺には大湿地帯がひろがっていたが、江戸時代に利根川の東遷、明治時代には利根川の河道や堤防が整備され、1963年に常陸川水門、1971年に利根川河口堰が建設され利根川下流域及び霞ヶ浦の環境が一変した。</p> <p>・利根川河口堰、常陸水門の運用を見直し、利根川下流域と霞ヶ浦にかつての汽水環境を取り戻すべき。</p>	<p>利根川河口堰は、塩害の防止を図るとともに都市用水及び農業用水の開発を目的として建設された施設です。堰の上流には都市用水及びかんがい用水の取水口がありますが、これらの取水に影響が及ばない範囲で堰の操作を行っています。</p> <p>操作をしている割合は、管理開始から10年の平均(昭和46年～昭和55年)で約6割となっています。近年10ヶ年(平成9年～平成18年の平均)の操作をしている割合は約7割となっています。</p> <p>塩害を防止するため、利根川河口堰の塩素イオン濃度の管理基準値は、26km地点表層で500ppm程度となっています。この基準値を確実に守るための操作を常に行っており、管理開始以降、高塩分による取水停止は発生していません。</p> <p>利根川河口堰の操作は、流入量、河口の潮位等の自然条件に大きく左右され、これまで水産資源の保護を考慮しつつ、利水の安定供給のため塩害を防止する操作を行ってきました。今後も引き続き、この範囲内において、堰操作による水質改善や魚類の誘導放流についても検討していきます。</p> <p>常陸川には鹿島南部農業用水の取水以外に農業用水の取水箇所が点在しており、塩分を遡上させることは取水に大きな影響を与えます。常陸川水門については、魚道の設置を行い魚類の遡上・降下環境の改善を図るとともに、水利用への影響に配慮した運用についての検討を行っていくものとします。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
						<p>・河川整備計画に対する住民意見の反映方法について 学識経験者に関係住民を加えた流域委員会をつくり、また、傍聴者の発言の機会を確保すべき。</p>	<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
30	60歳以上	男性	千葉県	流山市	<p>江戸川と利根川を結ぶ利根運河は明治23年に竣工、幾多の水運の歴史を残し、野田緊急暫定導水路の時代を経て、今回、高水流量500t/秒から0t/秒の大きな節目を迎えた。約27本の排水樋管から生活及び産業排水の流入が多く、水質は環境基準を大きく上回る。水質改善のための国、県、流域3市、住民及び企業の協働の場作りを提案する。</p> <p>活用においては、隣接する里山でオオタカ、サシバ等15種の猛禽類が、川表ではノジトラノオ、フジバカマ等500種を超える植物の開花が確認され、豊かな生態系が実感できる場、歴史・文化が味わえる散策路として評価が高い。したがって、観光地化や舟運の復活等、構造上の大きな改変が想定される事業は避けるか部分に止め、運河開削前、この地にあった三ヶ尾沼谷津水系(三ヶ尾沼に集水した湧水が利根川に注いでいた)その頃の二次的自然の再生を河川整備計画の目標とすべき。</p>	<p>■利根運河をアユが遡上できる水質に ○利根運河の現況平均値BOD3を2ぐらいにすればアユが上げってくるのでは</p> <p>■利根運河のたくさんの生物や景観をきらないで ○農地や拠点をつなげていくこと ○県の金2000万円ぐらいで観光地化事業や舟運の復活には、一定の歯止めが必要である ○水と緑と湿地と風が利根運河にふさわしい ○利根運河をアユが遡上できるように、江戸川水閘門でやっているアユの遡上を、利根運河でもやりたい ○植物調査によるとフジバカマ等548種類ぐらい確認している ○江川の方には、オオタカ、サシバが800m以内の距離で巣をつくっている ○斜面林は5kmぐらいあるので運河につなげて残していく ○観光はサクラ程度にした方が良い ■利根運河を掘ったから現在の自然が残っているため、掘る前の自然を残すような整備計画をつくっていただきたい</p>	<p>平成18年度には国、県、利根運河周辺市町による国土施策創発調査において利根運河流域を対象に自然や歴史・文化等の地域資源を活かした自然や歴史と調和した美しい地域空間の実現方法の検討を行い、利根運河エコパーク構想が作成されました。</p> <p>今後は、利根運河エコパーク構想実現に向けた利根運河協議会を設置し、関係自治体と連携し、人と川とのふれあいを高めるため、自然との調和を図りつつ、親しみやすい河川空間の整備と保全に努めた検討を行っていきます。</p> <p>現在進められている利根運河協議会の検討状況などを踏まえ、利根川水系河川整備計画(たたき台)へ必要な対策を反映するよう検討します。</p> <p>水質の環境基準については、環境基準点「運河橋」において3ml/l以下となっていますが、BOD75%値で見ると過去27年間で環境基準を下回った年は一度もなく、5.0mg/l以上で推移しています。水質をよくするためには、下水道などの流域対策と合わせ利根川からの導水などについて検討していきます。</p> <p>利根運河の生物や景観については、江川をはじめとする支川の水辺について、水田との連続性を確保した、ビオトープの創出や景観にも配慮します。</p> <p>利根運河の整備については、自然や景色と調和した美しい地域空間の実現に向けて取り組んでいます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
31	60歳以上	女性	茨城県	取手市	<p>流域住民の暮らしや安全、環境保全に深くかかわる河川整備計画が流域住民の合意形成の上に策定されるよう願って、利水問題についてとりわけハツ場ダムの建設も含め、これ以上のダム建設は不要との立場で公述を希望するものです。</p> <p>これまで国や地方自治体は過大な水需給予測によって多くのダム計画を進めてきました。水需給の実績は予測とはかけ離れていることが常で、度重なる下方修正をおこなっても尚、実績との差は埋まってはいません。それどころか茨城県に見られるように、いまや水道用水だけで、約57万人分、工業用水を合わせると200万人の余剰水をかかえるまでになっています。多大な税金の無駄遣い、高い水道料金の押し付け、環境破壊など、不必要なダムがもたらす害は計り知れません。茨城県はすでに人口減少期に入っています。よって不必要なハツ場ダム建設事業を利根川水系河川整備計画に位置づけないうよう求めるものです。</p>	<p>流域住民の暮らしや安全、環境保全に深くかかわる河川整備計画が流域住民の合意形成の上に策定されるよう願って、利水問題についてとりわけハツ場ダムの建設も含め、これ以上のダム建設は不要との立場で公述を希望するものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏の水需要は、減少傾向にある。すなわち水あまりである。 ・ダムに頼らず、貴重な水をいかに大事につかっていくか、国や自治体が真剣に取り組むべきである。 ・ハツ場ダムや霞導水事業など不必要なダムは利根川水系河川整備計画に位置づけないうよう求める。 	<p>ハツ場ダムは、吾妻川下流及び利根川下流地域の洪水被害の軽減、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持する流量の確保、下流1都4県の新規都市用水の確保を目的として、利根川水系吾妻川(群馬県吾妻郡長野原町)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>ハツ場ダムが完成すると、最大毎秒2,400m³の洪水調節を行い、利根川水系の上流ダム群とともに、下流部の洪水被害を軽減し、沿川地域の人々の生命・財産を守ります。</p> <p>また、ハツ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>ハツ場ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を目指します。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
32	60歳以上	男性	茨城県	取手市	<p>河川整備計画促進の観点からの意見</p> <p>①利根川本川から小貝川へのバックウォーター防止として、印旛沼～花見川～東京湾に至る放水路の整備促進と、布川(利根町)狭窄部の掘り下げの検討。</p> <p>②同時に放水路沿川地域(千葉県域)の親水性をより高めるため、環境事業として河川空間の日常利用の検討(市民コミュニティー空間の整備)。</p> <p>③利根川小貝川(旧取手～旧藤代)を周回するサイクリングロードの整備検討</p> <p>④魚道の整備と既存の魚道の再点検など</p>	<p>■小貝川の洪水の問題</p> <p>○激特事業により小貝川の堤防、護岸はしっかりしたものができて感謝している</p> <p>○小貝川の水害を防ぐ大変良い結果を生んでいる</p> <p>○母子島遊水池程度の規模の遊水池をあと2つつくらないと小貝川は安全でないと感じたことがある</p> <p>○激特事業で、特に岡堰から下流は河川整備が進んだと認識している</p> <p>■布川の狭窄部により小貝川の15kmぐらい上流まで逆流してくる</p> <p>○布川の対策として放水路をつくったり河床の掘り下げ等の検討をやらなくてはならない</p> <p>○利根大堰のように利根川の水を東京湾へ流すという方策をやらなくてはならない</p> <p>●小貝川の洪水をなくすために、本川の流れを変えていただきたい</p> <p>■環境問題を重視しながら放水路を検討する</p> <p>○緑道やサイクリング道などみんなで河川空間を活用出来る場を選んでやっていく</p>	<p>・小貝川では昭和61年の大水害を契機に堤防の拡築及び遊水地の整備、更に、平成11年7月洪水を契機に無堤部の堤防整備を行い、安全の確保を図ってきましたが、未だ対策が必要な区間が多く残されています。</p> <p>小貝川の河川整備計画は、概ね30年に1回の確率で発生する規模の洪水を新規の遊水地や河道掘削などによる河川整備により対処します。実施に当たっては、対策の安全性、確実性はもとより、経済性、効率性、環境の保全に十分配慮します。</p> <p>・布川は歴史的経緯から狭窄部となっておりますが、流下能力の確保に加え、長期的な河床安定や河岸浸食に対する安全性についてモニタリングを行うとともに狭窄部の水理特性の解析を行い、改修方法を検討していきます。小貝川については昭和56年の破堤災害等も踏まえて堤防の安全性の向上を図ります。</p> <p>・利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。</p> <p>今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p> <p>・利根川左岸及び小貝川右岸の旧取手市～旧藤代町に係るサイクリングロードについては、取手市及び茨城県により一部区間を除いて整備済みです。河川区域におけるサイクリングロードの整備は地元市町村や県が行っていますが、国土交通省としてもこれら機関が整備を行う際には協力していきたいと考えています。</p> <p>・河川の上下流方向の連続性の確保は、河川における動植物の生息・生育・繁殖環境の保全にとって重要と考えており、特に魚類の産卵場、生育場及び索餌場等に配慮し、正常流量の確保や魚道の設置など河川の連続性を損なっている河川横断工作物の機能・運用の改善等、施設管理者と連携を図りながら対策に取り組めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
33	50代	男性	栃木県	真岡市	上流ダム群の建設も含め、利根川水系の河川行政に関する問題点・矛盾点は多々ある。整備計画策定にあたっては、外からの厳しい検証と、抜本的な見直しが必要である。	<p>・新しい河川法の下で、新しい整備計画の中できちんと行って、失われ、破壊された自然の生態系の再生・復元を是非図っていただきたい。</p> <p>・利根川上流に今計画されているハッ場ダム、あるいは思川上流の南摩ダム等については、速やかに中止し、より有効かつ合理的な施策を国民みんなの開かれた場で考えるということが必要だろうと思います。</p>	<p>ハッ場ダム建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策を実施しています。また、周囲に国指定の名勝・吾妻峡があることから、景観などにも配慮しつつ整備を進めています。</p> <p>河川管理者としては、今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、ハッ場ダムを早期に完成させ、効果を発現させることが必要であると考えています。</p> <p>思川開発事業は南摩ダムと導水路の建設により、思川流域及び利根川本川下流域の洪水被害の軽減を図り、また、河川の維持や既得かんがい用水などの取水に必要な水量の確保を図るとともに栃木県及び埼玉県などの新規都市用水の確保、異常渇水時の緊急水の補給を目的として、利根川水系思川の支川南摩川(栃木県鹿沼市)で建設を進めている事業です。</p> <p>洪水時には、ダムサイト地点で最大125m³/sの洪水を調節し、思川流域及び利根川本川下流域の洪水を低減します。</p> <p>また、思川開発事業では4県(埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約3m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定豊水水利権として約1m³/s(約30%)が既に使われており、早急に暫定豊水水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>南摩ダム建設にあたり、周辺自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策を実施します。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					<p>渡良瀬貯水池(谷中湖)は、大失敗作であることは明白。国交省はそれを取り繕うため小手先の対策を弄しているが、構造上の欠陥を改めない限り解決はない。</p> <p>また渡良瀬遊水池の治水容量確保のための大規模掘削計画も、上流域の地元の洪水対策にはならないどころか、むしろ真の治水対策の障害になりかねない。洪水被害を恐れる地元のために早急に進められるべき治水対策事業は、遊水池の500万m³以上掘削ではなく、本川・支川の河道整備・堤防強化であり、そこに最優先で予算が使われるべきなのである。</p>	<p>・全体から言いますと貯水池、谷中湖は失敗策であると私は思います。</p> <p>・現在の限られた予算の中で何を最初にやるべきかといったら、200年に1回の洪水に備えるというような、利根川本流から言わせると本当に少ししかないような掘削計画ではなくて、実際の利根川やその支川の河道整備、堤防の嵩上げ、あるいは補強、河床の掘削を速やかに進めることが何よりも大事なのではないか。</p> <p>・不要不急の大規模掘削やダム建設に巨額の費用を投じるべきではない。治水効果が確実な河道整備を速やかに策定していただきたい。</p> <p>・是非一緒に、官民共同で、この遊水池という環境を全国に誇れる、世界に誇れる湿地として保全をしていきたい。</p>	<p>渡良瀬遊水池は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県の4県にまたがる日本で最大の遊水池で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るとい、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水池は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>
34	60歳以上	男性	千葉県	香取市	<p>ウナギ・シジミ・アユ・コイ・フナをはじめ利根川下流は魚介類の宝庫でした。上流のダム群から下流の河口堰や北千葉導水事業まで利根川の開発が進められた結果、かつて豊かであった昔の面影はどこにもない。</p> <p>近年、利根川下流の自然環境の衰退はいつそう深刻である。平成13年夏の赤潮が初めて発生、平成16年2月からの長期的な大規模な赤潮、平成16年8月のレンギョ(ハクレン)の大量死事件、ブラックバス・アメリカナマズなど外来魚の異常繁殖など水質自然環境は確実に悪化している。</p> <p>平成9年に河川法が改正され、水質・景観・生態系など河川環境の整備と保全が追加された。河川整備計画に河口堰の運用等の見直し、漁場環境の再生、外来魚の駆除など自然環境の回復対策の立案と実施を希望する。自然環境の回復は漁業者だけの問題でなく、流域住民すべての問題であり願いです。</p>	<p>■漁業環境の再生と自然環境の回復を河川整備計画に位置づけるよう要望する</p> <p>○上流ダム群や河口堰、北千葉導水事業まで利根川の開発により、魚介類が減り、組合員も3割前後まで減少した</p> <p>○平成13年から赤潮の発生が始まり、平成16年2月から長期にわたり大規模に赤潮が発生した</p> <p>○平成16年8月にはレンギョが1万匹以上も死ぬ大量死亡事件が発生した</p> <p>○ブラックバス、アメリカナマズなど外来魚は異常繁殖している</p> <p>■河川整備計画に利根川河口堰と北千葉導水事業の運用を改善し、漁場環境の再生、外来魚の駆除など自然環境の回復対策の計画と実施を強く要望する</p>	<p>・利根川河口堰や北千葉導水事業は、塩害防止や首都圏の都市用水などの確保のために必要な施設です。水質については、利根川本川のみならず支川なども含めた流域全体の社会要因に起因する汚濁負荷を受けるため、下水道事業などによる汚濁負荷量の削減をはじめとした流域の関係機関や地域住民などと一体となって水質環境基準の達成と更なる水質の向上を目指すとともに、引き続きモニタリングを行っていきます。</p> <p>また、漁場環境の再生を図るなど魚類はもちろん、生物全般における多様な生態系の確保が図られるように、河川横断工作物の魚道整備や補修などについて検討を進めます。</p> <p>・利根川河口堰では河口堰下流域の汽水域環境を守るため、維持流量として30m³/sを確保しており、神栖市川尻地区等では広大な湿地環境が残っており河川整備計画の中でも保全を図っていきます。また、河口堰の既存魚道の改修を行うとともに新たに遡上能力の低い魚類等に対応するため緩傾斜多自然魚道の新設を計画しています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
35	60歳以上	男性	千葉県	香取市	<p>利根川は、江戸の台所を支えた物流の手段であり、又江戸の文化を地方へ伝え、今日の生活、文化の基を築いた重要な河川です。佐原には、当時を偲ばせる伝統的な建造物群や山車祭りをはじめとする文化遺産が数多く残り、歴史的景観・観光資源として注目されているところです。そこで、私は次のような提案を致します。</p> <p>①佐原の町並みや横利根川閘門は、国の重要文化財として指定され、国民の文化財として活用が望まれています。そこで、小野川河口の水門を二重構造にし、町並みを訪れる観光客が、横利根閘門や利根川に建設する広域交流拠点へ事由に行き来できるようにする。</p> <p>②スローライフが注目されております。かつて、利根川には、高瀬船や外輪船が航行した良き時代がありました。利根川水系に遊覧船を浮かべ、舟遊びを楽しめる環境を整えて頂きたい。利根川水系に観光・物流としての機能を取り戻したい。</p>	<p>●佐原は「国の重要伝統的建造物群保存地区」として平成8年に指定され価値が非常に高いと思われる</p> <p>■広域交流拠点と佐原の街並み、利根川閘門を絡めて、小野川の水門について2重構造にしてほしい</p> <p>○広域交流拠点から佐原の町の中へ行くには、歩くか少し歩いてから船に乗るので、町部へのアクセスが不十分である</p> <p>○広域交流拠点から直接利根川へ出て小野川をさかのぼれるような整備が必要である</p> <p>○横利根閘門をもう少し人が行きやすいような方法、観光客が楽しめるような形になれば良い</p> <p>○広域交流拠点、町の中、横利根閘門の3点が船で結ばれることによって楽しめる</p> <p>■スローライフの時代を迎えて、利根川水系の観光・物産を復活させたい。特に大型船が就航できるための整備と運営の御支援をお願いしたい</p> <p>○かつての高瀬船、外輪船を今復活できたら良い</p> <p>○銚子から関宿を通って江戸川を下って東京まで2、3日かかって旅ができるのはロマンがあって楽しい</p> <p>○民間だけで就航するのは難しいので、軌道にのるまで何かの支援が必要である</p> <p>○大型船が航行できるよう施設面、運営面への援助が必要である</p> <p>●これからの時代は、体験したりとか、そういうことを楽しめるところが必要になると思われる</p>	<p>・香取市の本宿耕地地区は、香取市の都市再生を図るため、歴史的地物、観光資源を活かした広域交流拠点として位置づけられており、国土交通省は、高規格堤防整備と高水敷の環境整備により、千葉県・香取市のまちづくりと一体となって地域再生・都市再生の促進を支援していきます。</p> <p>また、舟運については、地域住民や関係自治体と連携しながら、川を利用した地域のつながりを再構築し活性化を支援するため、利根川と周辺湖沼、水路などを結ぶ水上ネットワークの構築や関連する拠点整備のあり方についても検討します。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
36	60歳以上	男性	茨城県	取手市	<p>1. 新聞報道によると、全国的に「浸透破堤」調査が行われたようですが、当管理区間ではその後もその後も実施されていないければ、地震時における堤防の安定(液状化、円弧すべりなど)を含めた調査・検討を早急を実施し堤防の安全度を確認して欲しい。</p> <p>2. 小貝川の岡堰から下流域における洪水対策(バックウォーター対策)は、軟弱地盤帯で条件の悪い小貝川側で考えるより利根川本川で考えるべきで、以下の方法などを検討して欲しい。 (1)放水路の整備による分流方式(印旛沼～東京湾) (2)狭窄部(布川)の引堤及び河道掘削 (3)調節池による流量調節の促進 (4)スーパー堤防の建設</p> <p>3. 多自然型川づくりの推進</p> <p>4. 既設魚道の実態調査と魚道の整備</p> <p>5. サイクリングロードの整備(旧取手～旧藤代)</p>	<p>1. 新聞報道によると、全国的に「浸透破堤」調査が行われたようですが、当管理区間ではその後もその後も実施されていないければ、地震時における堤防の安定(液状化、円弧すべりなど)を含めた調査・検討を早急を実施し堤防の安全度を確認して欲しい。</p> <p>2. 小貝川の岡堰から下流域における洪水対策(バックウォーター対策)は、軟弱地盤帯で条件の悪い小貝川側で考えるより利根川本川で考えるべきで、以下の方法などを検討して欲しい。 (1)放水路の整備による分流方式(印旛沼～東京湾) (2)狭窄部(布川)の引堤及び河道掘削 (3)調節池による流量調節の促進 (4)スーパー堤防の建設</p> <p>3. 多自然型川づくりの推進</p> <p>4. 既設魚道の実態調査と魚道の整備</p> <p>5. サイクリングロードの整備(旧取手～旧藤代)</p>	<p>・直轄区間において、浸透に対する安全を確保するため、堤防点検を実施しており、平成19年3月現在で当該地区においては、完了しております。</p> <p>・小貝川では昭和61年の大水害を契機に堤防の拡築及び遊水地の整備、更に、平成11年7月洪水を契機に無堤部の堤防整備を行い、安全の確保を図ってきましたが、未だ対策が必要な区間が多く残されています。</p> <p>小貝川の河川整備計画は、概ね30年に1回の確率で発生する規模の洪水を新規の遊水地や河道掘削などによる河川整備により対処します。実施に当たっては、対策の安全性、確実性はもとより、経済性、効率性、環境の保全に十分配慮します。</p> <p>・布川は歴史的経緯から狭窄部となっていますが、周辺は人家が連なった市街地が形成されており、引堤は困難であると考えています。流下能力の確保対策については、長期的な河床安定や河岸浸食に対する安全性についてモニタリングを行うとともに狭窄部の水理特性の解析を行い、工改修方法を検討していきます。小貝川については昭和56年の破堤災害等も踏まえて堤防の安全性の向上を図ります。</p> <p>・自然環境の保全については、河川整備において河川利用や長大な利根川の各地域の自然特性に配慮し多様な生態系を育む環境の保全・再生を目指します。</p> <p>・河川の上下流方向の連続性の確保は、河川における動植物の生息・生育・繁殖環境の保全にとって重要と考えており、特に魚類の産卵場、生育場及び索餌場等に配慮し、正常流量の確保や魚道の設置など河川の連続性を損なっている河川横断工作物の機能・運用の改善等、施設管理者と連携を図りながら対策に取り組めます。</p> <p>・利根川左岸及び小貝川右岸の旧取手市～旧藤代町に係るサイクリングロードについては、取手市及び茨城県により一部区間を除いて整備済みです。河川区域におけるサイクリングロードの整備は地元市町村や県が行っていますが、国土交通省としてもこれら機関が整備を行う際には協力していきたいと考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
37	60歳以上	男性	千葉県	松戸市	<p>1. 河川敷の有効利用の拡大 現在はゴルフ場、グラウンドなどに利用されているが、市民に一坪菜園として利用できないか。市民が今まで以上に河川に触れ親しみを持つことが出来る。そのための道路も必要であろう。</p> <p>2. ビオトープの増設促進 河川敷の各所にビオトープが造られているが、市民の憩いの場にもなるし、地域環境にも最適である。特に市民が手を浸せる小川も河川敷に置くと良い。</p> <p>3. スーパー堤防の促進 スーパー堤防は安心と美化で賛成である。出来れば天端を車道にして欲しい。なぜならば、運転していて川が見える方が心にやすらぎを持てる。</p>	<p>欠席</p> <p>欠席</p> <p>欠席</p>	<p>1 河川敷の占用は、原則として国又は地方公共団体など及び非営利の愛好者団体などに限られていますが、市町村などの公園計画の中で一坪菜園として位置付け利用することもあります。</p> <p>2 長大かつ広大な利根川において多様な生態系を育む基盤となる礫河原・瀬淵・ヨシ原・干潟など良好な河川環境の保全・再生に努め、上流から海域まで動植物の生息・生育・繁殖環境の縦断的な連続性の確保に努めるとともに、流域に残る湿地、緑地などと河川環境を水系の骨格としてつなぐネットワーク化を推進します。</p> <p>その中で、自然ともふれあえるビオトープの造成などについても、取り組んでいきます。</p> <p>3 高規格堤防(スーパー堤防)は、后背地が広くなだらかな構造であることから、堤防の高さを超えるような洪水が来ても決壊しない、水が浸透してもこわれない、地震に対して強いといった特徴を有しています。</p> <p>高規格堤防整備は、まちづくりや区画整理等の面的な整備と一体的に実施する必要があることから、面的整備の動向について沿川自治体などと情報の共有化に努め、機会を捉えた着実な整備を実施して行くことにしています。</p> <p>また、高規格堤防の后背地側はその構造上通常の堤防より格段に高い位置にあり、堤防直近の道路であれば、視界が良好となることはご指摘の通りです。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
38	60歳以上	男性	茨城県	取手市	<p>利根川と小貝川の合流部分の改修促進を求める公述を希望します。利根川と小貝川との合流域は、利根川の水位が上昇し、小貝川に逆流する現象が頻繁に起きています。小貝川は昭和25年に右岸が、昭和56年8月には左岸堤防が決壊し、大きな被害を出しました。未だ、危険箇所が残されています。(平野地区)平成16年9月に、利根川水系県南水防事務組合からも改修必要書が出され、地域にとって重大問題です。早急なる改修を求めるものです。利根川水系河川整備基本方針では、従前の利根川放水路計画が廃止となり、新利根川放水路計画が出されていますが、小貝川の逆流が大きくなるのではと危惧するところです。基本高水が過大であり、再考を求めるとあわせ、安全確保のために改修促進を求めるものです。</p>	<p>・小貝川からの逆流を防止するため整備を促進していただきたい。 ・小貝川の浸透対策などの堤防整備だけでは、抜本的解決にはならないと考えており、布川狭窄部を深く掘るか、広げるかといった方法やバイパスなどの放水路も考えられるのではないかと</p>	<p>小貝川の河川整備計画については、概ね30年に一回の確率で生起すると予想される洪水流量や降雨を安全に流下させることを目標に考えています。小貝川では、中下流部に流下能力が不足している区間があることから、河道内樹木の伐採や河道掘削により、必要な流下能力を確保することを考えています。さらに、堤防については、浸透に対する堤防の詳細点検の結果を踏まえ、浸透に対する強化対策を実施していきます。</p> <p>なお、放水路の整備につきましては、印旛沼を調節池として活用し、放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から1,000m³/sの分派を図るものであり、これにより利根川の放水路としての機能だけではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えているもので、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響、等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p> <p>また、布川地区の河川整備については、流下能力の確保に加えて、長期的な河床の安定性や河岸浸食に対する安全性についてモニタリングを行うとともに、狭窄部の水理特性を解析し、具体的な改修方法の検討をすすめます。</p>
39	60歳以上	男性	千葉県	佐倉市	<p>上水水源としては、全国ワーストワンの印旛沼は、毎年水温上昇とともに毒性の強いアオコ(藍藻類)の異常発生で、生態系は破壊され、多くの水生生物は絶滅の危機に立たされています。</p> <p>現在の印旛沼は、汚染汚濁に犯され、印旛沼流域の千葉県民140万人の飲料水に利用されており、健康・衛生問題が問われていて、早急な水質改善が最重要課題になっています。循環型社会を目指す「みどりの変革」の趣旨どおり、「とりもどそう！ふるさと自然」環境づくりとして、印旛沼の再生をしてゆくことを目指して、環境に優しい生き物を使った水質浄化に取り組んでいるものとしては、水質改善されていない現状の印旛沼に利根川導水は、新川・花見川を通じて東京湾に汚染されている印旛沼の水を流す事となり、千葉県の掲げる千葉戦略「生物多様性」を無視した計画と思われ、環境破壊を東京に引き起こす事になりかねません。</p>	<p>■印旛沼の水を安易に東京湾に流して良いか ○見直し事業はやっているが、水循環健全化会議の中で一つ一つ共同事業で一步一步進んでいる計画が国の政策によって打ち破られる ○印旛沼の夏場のアオコ発生により生態系が崩れており、現在、緑の変革の趣旨どおり水質改善を検討している段階で、もし10年かかってでき上がったと仮定しても、その後の利根川放水路により利根川の水が入ってきたら印旛沼水質浄化が一気に壊れてしまう ○印旛沼の水質を浄化してから、利根川の洪水を流れ込ませて調節池として受けとめれば、生態系も破壊しない ○千葉県の「生物多様性ちば戦略」をうたっているが、自然浄化型の小さな保全運動が、利根川放水路計画で一気に壊れてしまう危機感がある</p>	<p>利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。また、分派した洪水を印旛沼内に滞留させないことにより、植物プランクトンの増殖が抑制されるなどの水質改善の効果も期待されます。</p> <p>今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
40	50代	男性	埼玉県	北川辺町	<p>利根川への思い</p> <p>私は、カソリン台風の洪水の翌年昭和23年生まれ58才です。住所は、北川辺町飯積で利根川堤防下に家があり子供時代利根川とともに過ごしました。子供の頃の思い出の多くは、夏真黒に日焼して水遊び・魚とりし冬になれば土堤の芝焼きなど川や土堤は遊びの中心になっていました。又、渡舟もあり、向かい岸(大磯)との人々のいきかう様子なども懐かしく思い出されます。</p> <p>その後、大規模な洪水対策が繰り広げられ川底の浚渫、川中の拡大、堤防の引提と強化などが行われましたが、何か大きなもの失ったのもこの時代ではないでしょうか。社会情勢の大きな変化があるとはいえ、人間と自然としての川との関わりが失われ川への親近感がなくなりました。</p> <p>今後、利根川への期待は、治水対策は最優先されねばなりません。昔のよい点を生かし住民にとって親しみのある場所にすることが大切だと思います。</p>	<p>■昔は川との関わりが非常に強かったが、人々の心から河川が遠のいてしまった時期が高度成長の時代にはあり、これからの利根川のあり方を考えていく必要がある</p> <p>■住民の声を聞きながら河川行政を進めていくのが大切だと考える</p> <p>■人間の生活の原点はある水なので、治水、利水、親水を考えた河川行政がいい</p> <p>■防災ステーションなどのふだんの利用を工夫して、地域住民の憩いの空間を拡大しながら防災、治水を考えればありがたい</p> <p>●飯積河岸、大越河岸、加須市のこいのぼり等の行事を通じて、川に親しみやすい整備をしてほしい</p>	<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p> <p>防災ステーションなどの通常時の利用については、多くの地域住民の憩いの場となる工夫をしつつ、災害に備える啓発活動の場として利用されるよう、関係自治体と取り組んでいきます。</p> <p>利根川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、釣りやスポーツ等の河川利用及び環境学習や自然体験の場となる「水辺の楽校」並びに歴史や文化を踏まえた地域の交流拠点となる「水辺プラザ」等について、地域と連携して整備を推進します。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
41	60歳以上	女性	千葉県	野田市	<p>私は岩手の山、川、海の懐に抱かれて育ててもらいました。子供の頃祖母が「山の木は水がめなのだよ水は命だ、だからむやみに木を切り、山を削り川を堰き止めるなどと自然に抗うと子々孫々に竹箆返しがくるよ」とっていました。</p> <p>人間は100年しか生きられない中で数万年もの間命を支えてきてくれている自然体系を破壊してしまうことの傲慢さは許されるものではないでしょう。人間も生き物であるという謙虚さを持ち続けて欲しいです。そして、今日も利根川と江戸川が悠々と流れています。川は心の故郷と謳っている明治時代の野田の作曲家山中直治さんは次のようにうたっています。利根川、霧深き毛野の山より豊にも湛え流れて幾片か雲の越えけんあなあつかしふるさとの色ぞ利根川。このうたからは利根川の上流にダムが出来るなど想像することすらも出来ません。</p>		<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
42	50代	男性	埼玉県	川口市	1. 私と利根川(利根川で産湯をつかった私) 2. 私と建設省の思い出 3. 河川事業に思う事 4. さらなる利根川との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏氾濫区域堤防強化対策事業のパンフレット1枚で、あなた方は強化対策のためにどいてくださいと言われました。僕は説明会に行ったときに、自分の子供や家族に対して、何故動かなければいけないのか、何故そうなるのかということを説明できなければ、この説明会に来て何の意味もありませんと言いました。しかし、その説明をされた方が僕の自宅に来てこれです。こういうふうなことが今の時代に成り立つのでしょうか。 ・何故必要か、子供やお年寄りに理解出来るような工夫をしてください。 ・議事録をとってほしい。途中から入ったって、何を説明しているのか全然わからない。それから、それによる情報公開。 ・沿川住民の参加です。沿川住民というのはいろいろな形で出来ると思います。 ・今まで意見の場が全然ありませんでした。こういうチャンスをいただきましてありがとうございました。 	<p>江戸川の右岸堤は、首都圏を氾濫域に抱え、ひとたび堤防が決壊する被害が発生すると、その氾濫は埼玉県内はおろか東京まで達し、首都圏が壊滅的な被害を受ける恐れがあります。近年の洪水においても、堤防又は基礎地盤への浸透による漏水や、洪水による堤防の洗掘などの被害が発生しており、現在の堤防の安全性は必ずしも十分とは言えない状況です。このため、首都圏氾濫区域の堤防(約70km)について、堤防拡幅による堤防強化対策を実施することとしています。</p> <p>地元の住民の方々への説明については、丁寧に分かりやすいように努めていきます。</p> <p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、河川の整備計画制度の見直しを行ったものが、平成9年の河川法改正です。平成9年の河川法改正に伴い、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定します。なお、「河川整備計画」を策定するにあたっては、関係住民、関係自治体、学識経験者からの意見聴取を実施することとしています。</p> <p>利根川流域は、1都5県にまたがり、流域が広く支川も多いことから、より多くの関係する誰もが意見を述べる事が出来る方法として、インターネットやはがきなどによる意見募集、住民の皆様のご意見を伺う場の開催などをこれからも実施していきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
43	60歳以上	男性	埼玉県	幸手市	<p>1 河川整備計画の目標(治水)について 「上・下流体・支川バランス」と「既存ストックの有効利用」を合わせた効率的な治水対策の展開についての提案。河道内貯留施設の設置や河川区域外貯留施設の有効利用の有機的な活用による治水対策の検討等について。</p> <p>2. 河川環境の整備と保全について ダム直下流流況改善の提示に関して、河川区域を超えた流水の連続性の検討についての提案。利根大堰の冬季試験通水が中川・綾瀬川の水質改善や地下水の涵養に効果的であるため、本格通水の検討について。</p> <p>3. 利根川と江戸川の分派対策について 利根川と江戸川の分派等、河川改修における江戸川下流利水に配慮した整備計画についての提案。計画立案と実施について。</p>	<p>欠席のため要約無し</p> <p>欠席のため要約無し</p> <p>欠席のため要約無し</p>	<p>・利根川本川・江戸川は、本支川・上下流バランスを確保しつつ、概ね50年に1回の確率で生起すると予想される洪水流量を安全に流下させるように整備します。整備に当たっては、既存ストックの有効活用を図ります。</p> <p>・身近な河川や水路等に水を流すことにより、親水性を高めたり、水路等を浄化したり、また、動植物等の生息・生育環境及び歴史的文化遺産を保護・保全しようという環境に対する国民の関心、地域のニーズが高まってきています。このため、流域の河川流量に余裕があるような時には、基幹の河川のみでなく、流入する各地域の水路等のネットワークについて、効果的な通水による水辺環境の改善を検討していきます。</p> <p>・利根川本川と江戸川の分派については、利根川本川下流部の流下能力を踏まえ、江戸川への分派を適切に確保するとともに江戸川に過度の負担がかからないように整備を進める必要があると考えています。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
44	60歳以上	男性	千葉県	成田市	<p>1. 改正河川法にも明記された、水循環の特に水質改善に配慮されたい。</p> <p>2. 河川施設(ダム・堰)の操作は慎重性を求められるが、規定の弾力的運用により渇水時流量の増加が期待できる。近年気象予報の精度も向上しており、弾力的運用により危険は避けられる。これにより河川環境が改善されれば、費用対効果は高いと思われるので、改善に繋がる操作の弾力的運用も明記されたい。</p> <p>3. 正常流量について、かんがい期、栗橋120トン、河口堰30トンと示されているが、河川環境や水生動植物への影響も考慮し、利根大堰直下流でゼロにならない正常水量を確保されたい。</p>	<p>■水環境特に水質改善の配慮をお願いしたい ○千葉県の野菜は、利根川を水源とした畑地かんがいを行っているが、利根川の水質が、年々富栄養化しており営農に苦慮している ○都市下水道部門と連携して、流域の水質改善につながる河川整備計画の策定をお願いしたい ○下水道整備率の低いところもあるので、行政の方からもお願いしたい</p> <p>■ダム、堰などは操作規程の弾力的運用により渇水被害の低減が期待できるため計画に盛り込んでほしい ○近年の希少観測の精度の向上により、弾力的運用による危険は避けられる ○渇水時の流況改善により現行の管理費を特に増額しなくても良い ○改善につながる操作の運用について整備計画に盛り込んでほしい</p> <p>■利根大堰直下流でゼロにならない正常流量の確保をお願いしたい ○平成6年には露出し、水質や水生生物にも大きな影響があった ○かんがい期は、将来計画として30m³/s確保しても、流域全体を考えると多すぎることは無い ○渇水時に水質は悪くなり水位も下がるため、導水路に堆積しているヘドロまで吸い込む。このため、調整池へヘドロが沈殿し、富栄養化によりアオコが発生し、畑地かんがいに支障を来している ○渇水時にも利根大堰直下流で一定水量が確保され、水質が改善されれば、都市用水等の浄化費用も大幅に低減する</p>	<p>・利根川は広大な流域の中に首都圏を擁しており、都市化の進展や産業の発展等に伴う流域からの排水の受け皿となっているため、生活系、産業系等の点減や、山林、田畑等の面源からの有機物や栄養塩類(N、P)等の負荷の流入により、依然として利根川下流部や都市部における支川等の環境基準値を満足していません。このため、流域の関係機関や住民等と一体となって水質の保全や改善を図っていく必要があります。</p> <p>・ダムの弾力的管理は利根川水系の複数のダムで実施していますが、その目的はダム下流への清流回復などであり特定の水利目的のために流水を貯留し放流しているものではありません。今後も引き続き、水位、流量及び水質データの収集などを行い、弾力的管理の効果の把握に努めます。</p> <p>・利根川や江戸川では、流水の正常な機能の維持を図るため、栗橋や野田などの主要な地点における正常流量を決定し確保を図ると共に、さらにきめ細かい低水管理を行うため利根大堰上下流などにおける流量を決定し、運用を図っていきます。</p> <p>・利根川の流況安定のため、既設の利根川上流8ダム(矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、藪原ダム、下久保ダム、草木ダム、渡良瀬貯水池)、鬼怒川川治ダム、下流の北千葉導水路、利根川河口堰に加えてハツ場ダム、思川開発、湯西川ダム、霞ヶ浦導水について早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>・近年の、親水性や生物への関心の高まりの中で、BODによる環境基準だけではなく、人と河川の豊かなふれあい、豊かな生態系、水道水源として利用しやすい水質を指標とした調査を実施しています。今後とも水質、水量ともに良好な水環境を目指した河川整備を進めていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					4. 渇水時の調整において、現行では安定水利権も暫定水利権も一律で調整が行われておりますが、安定水利権が円滑に運用されるよう利水計画も考慮されたい。	<p>■ 渇水の根本的な解決に向けて、流況安定のための新規ダムなど水源の確保のための整備の促進をお願いしたい</p> <p>○ ハツ場ダム、湯西川ダム等早期に完成させて、流域全体の渇水緩和や水質改善に役立つ推進をお願いしたい</p> <p>○ 渇水時、都市用水が優先されているが、農作物は一旦枯れてしまえば成長は期待できない</p> <p>○ 利根川下流域や千葉県は自然取水でなくポンプアップであるため、電力費がかかるため余計な水はとっていない</p> <p>● 水環境が農業用水にも水生生物にも好ましい水準になれば沿川住民に対する親水機能も発揮される</p>	

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
45	60歳以上	男性	千葉県	佐倉市	<p>1. 今回の河川整備計画では、印旛沼に調節容量を持たせ利根川本線の治水に利用する計画であるようですが、現在まで簡単な口頭説明を受けただけでは、当事者として不満であり、強い懸念を感じています。また、印旛沼周辺で行われている土地改良事業に悪影響を及ぼすことのないよう配慮してもらいたい。</p> <p>2. 印旛沼の水質は、地域の努力により改善方向にあります。今度の河川整備計画では更に改善する策を考えてもらいたい。</p> <p>3. 印旛沼開発事業以降、農水・工水・上水のあいだでお互いに協調して用水している。このような良い関係を壊すことのないよう強く希望する。</p>	<p>欠席</p> <p>欠席</p> <p>欠席</p>	<p>利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。(また、分派した洪水を印旛沼内に滞留させないことにより、植物プランクトンの増殖が抑制されるなどの水質改善の効果も期待されます。)</p> <p>今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p> <p>2 印旛沼流域水循環健全化会議では、学識経験者をはじめ関係機関が集まり印旛沼再生を目指して、様々な検討を実施しています。その中の目標の1つである「ふるさとの生き物はぐくむ印旛沼・流域」では、水質・湧水・水生生物・在来生物種を評価の視点として自然環境や生態系に配慮に取り組んでいます。また、他の目標である「人が集い、人と共生する印旛沼・流域」では、水質・アオコ発生・利用者数等を評価の視点とし、景観や環境にも配慮した取り組みを行っています。河川整備計画により河道掘削や拡幅などを実施する場合は、自然環境への影響について配慮し実施します。</p> <p>3 水資源機構や農林水産省などの印旛沼に係る他事業との整合については、関係機関と情報交換を行い、事業内容や実施時期などの調整を図っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
46	60歳以上	男性	千葉県	栄町	<p>利根川の支流である「長門川」は、朝・夕の景観が心なごむ風景の一つであります。しかし、堤敷の法面に雑木・野ばら・篠藪等が生茂り、その景観を阻害しているのみならず、交通の点からも見通しが悪く、ごみの不法投棄や不審者による痴漢等も心配されているのが現状であります。</p> <p>現在、ボランティア(栄町さくらの会)の活動と県・町との連携により、環境整備を実施したところ、最近「健康道」としてサイクリングや散策の人が多く見られるようになってきておりますが、あまりにも延長が長く環境整備が追いつかないのが現状でありますので、河川改修と併せて堤敷の川側や民家側の環境整備を実施することにより、「子供から大人まで」河川の雄大な眺めや野鳥・とんぼ・ボラなど自然と一体になった郷土のすばらしさが実感できる財産を活かす「川づくり」に取り組んでいただきたいと思っております。</p>	<p>■河川改修時に水質も含めて土手の整備もやっていただき、地域住民の郷土愛も含めて川遊び等も復活してくると思われる</p> <p>○長門川の約5kmの堤敷は、篠藪や雑木があり、川が存在が見えるような状態になっていないため、交通の邪魔や不法投棄の原因にもつながっている</p> <p>○「さくらの会」により、昔の安食駅から長門川の間2.1kmにあった堤防の約300本の桜の木を復活させようと、堤防をきれいに行っている</p> <p>○長門川の堤敷約2.1kmのうち1kmの篠藪や雑木を切ったところ、長門川が見えるようになり景観が良くなり、風光明媚の復活に向け動いている</p> <p>○篠藪等を切りきれいになったので、小学生とごみ拾いを実施し情操教育の効果もあり、豊かな気持ちになった</p> <p>■レジャーボートの波により護岸が削られるので、護岸の整備とスピード制限をお願いしたい</p>	<p>・河川は、水が流れている部分のみでなく、流域全体の広域的な視野と将来の姿を見通す長期的な視野を持ち、流域に関わる多くの人々の協働によって「川は地域共有の公共財産である」という共通認識の中で管理を行うことが重要であると考えています。</p> <p>このため、水質、人と河川とのふれあい、自然環境、河川景観などの整備を進めるにあたっては、地元自治体のみならず地域住民などの意見を聴きながら、情報の共有化を図り、取り組むことが連携の基本と考えています。</p> <p>小中学校などの授業、総合学習、住民参加によるボランティア活動などの支援を行うことで、河川環境への啓発活動を図ります。</p> <p>また、地域が一体となって子どもと水辺を考え、地域の特色を活かした水辺の楽校計画を策定し、河川の整備が必要な場合は、自然の状態を極力残しながら、川岸などへのアクセス性の改善、瀬・淵、ワンドなどの復元を行い、子どもたちが自然と出会える水辺を整備します。</p> <p>・河川の中でのレジャーボートの波による護岸の削れについては、その実態を把握したうえで、河川の利用に関してのマナーの向上を図ると共に、洪水時の流速が堤防に影響を与えるような箇所は、引き続き護岸の整備を進めていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
47	50代	男性	千葉県	香取氏	<p>私が小学生の頃、利根川やそこに流れ込む小さな川や水路は釣り、魚取り、舟遊び、虫取りなど四季を通じて色々な遊び場として親しんでいました。ところが、現在では、水害や災害に強い河川、護岸であるためコンクリートやブロックなど人工材で固め、更に急傾斜であるので近寄りやすい川になったような気がします。治水も重要であるので内側を強く表面や水辺を自然に近い資材で整備をしてもらい、子供やお年寄りでも水辺を散策できる部分も必要ではないかと思えます。</p> <p>護岸や堤防の安全な一部分を町内会や地域のボランティアグループに開放し、花壇や畑などを造ってもらい、皆で維持管理をして誰でも気軽に立ち寄れる場になれば良いと思います。</p> <p>サイクリング道路を走りながら四季の草花や川の流れを眺められたら最高です。またそうすることにより、川が身近で大切なものだと思います少しでもゴミを減らせることにつながり、きれいな環境の利根川になると思います。</p>	<p>■治水は重要であるが、内側は強く、表面はある程度自然に近いような資材、材料で整備した方が良い ○堤防や護岸の整備によって、川は近寄りやすい川となってきた気がする ○子供達やお年寄りが誰でも安全に近寄って楽しめるような部分的な面も整備してほしい</p> <p>■河川を地元の町内会やボランティアグループに開放し、花を植えたり畑などをつくって誰もが身近に寄れるような河川整備が必要である ○開放により堤防のごみや不法投棄が減っていくと思われる ●サイクリング道路から自然の護岸や花を眺めながら、楽しい川べりの生活ができたらいいと思う</p>	<p>・かつての河川整備は、治水機能の効率性を優先するあまり、低水護岸などの前面をコンクリートで覆うなど、自然環境などへの配慮し欠ける施工が多く実施されてきました。</p> <p>このため、平成2年に旧建設省が治水機能と環境機能を調和させた多自然型川づくりの推進を打ち出してから、多自然型川づくりの施工は着実に定着していますが、一方で、場所ごとの自然環境の特性への配慮を欠いた改修や他の施工区間の工法をまねただけの画一的で安易な川づくりも見られました。</p> <p>このため、国土交通省の「多自然川づくりレビュー委員会」は、平成18年5月までに「多自然川づくりへの展開ーこれからの川づくりの目指すべき方向性と推進のための施策」の提言をまとめ、現在の課題を解消していくための方向性を打ち出しました。</p> <p>この提言により、特別なモデル事業であるかのような誤解を与える「型」をとり、普遍的な川づくりの姿として、①個別箇所の多自然から河川全体の自然の営みを視野に入れた多自然へ、②地域の暮らしや歴史・文化と結びつき、③河川管理全般を視野に入れた多自然川づくりを推進します。</p> <p>また、河川利用施設の整備にあたっては、高齢者をはじめとして誰もが安心して親しめるようユニバーサルデザインに配慮するとともに、沿川の自治体が立案する地域計画などとの連携・調整を図り、河川利用に関する多様なニーズを十分に反映した河川整備を推進します。</p> <p>・河川管理者である国土交通省は、河川の環境を守るために、日々河川パトロールを行っています。また、河川の維持・管理については、利根川は水域が広く、船舶により水面利用や不法係留船も多く見られるため、巡視船により水面上からも実施しています。しかし、長大かつ広大である利根川や江戸川を管理していくためには、河川管理者だけでは困難であり、流域の人々の協力が不可欠です。</p> <p>このため、関係自治体とともに地域の団体・ボランティアなどの地域づくりの活動との連携・支援を積極的に推進し、地域住民や関係機関などと一体となった協働作業による河川管理が必要と考えていますので、具体的なお考えがあれば、ご相談いただければと思います。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
48	50代	男性	茨城県	取手市	<p>昭和60年代までは旧建設省で様々な治水事業を行って頂きました。洪水の被害もなくなり、人々の関心が川からはなれてきました。ところが、平成になると心のやすらぎの場を求め、再び川に関心を持つようになり、河川環境問題がクローズアップされるようになってきました。近年の降雨の状況は、いつ洪水の被害にあうかわかりません。ここでもう一度治水に力を入れていただき、川の浚渫、堤防強化、稲戸井調整池計画、印旛導水路計画など事業を早急に進めていただきたい。</p> <p>河川環境については、人々の生命財産が確保されてこそ考えるべき性格を持っています。ソフト面の環境整備については、治水、利水事業とあわせて国において強化の為の予算措置をしていただきたい。</p>	<p>○治水事業の進捗により洪水被害が無くなり、川に目を向けなくなった ○その後、公害等の環境問題により治水事業がおろそかになった ○近年の降雨状況は、全国的に人々の生命、財産を脅かしている ■稲戸井調整池を初めとする調節地の予算等の位置づけをお願いしたい ■堤防の強化であるAランク、Bランク等の予算づけをお願いしたい</p> <p>○環境も大事であるが、人々の生命、財産を守ること環境だと考えている</p>	<p>・利根川水系河川整備計画においては、概ね50年に一回の確率で生起すると予想される洪水流量(支川は30年)を対象にして、上下流や本支川のバランスを確保しつつ、現実的に可能な限り河道で対応する施策を講じ、それ以上についてはダム等の洪水調節施設で対応することにより、効率的な治水計画を策定することとしております。 ・これまでの堤防整備は、堤防がない区間での築堤、幅や高さが不足している区間での拡幅や嵩上げを優先的に実施してきました。また、堤防は原則として、土でつくられ、過去幾度にもわたって築造・補修され現在に至っているという歴史的経緯を有し、その時々で現地において近傍の土を使用して築造するため構成する材料の品質が不均一であるという性格も有しています。そのため、平成14年度から浸透に対する安全性の調査を実施してきました。今後は、この堤防点検結果を踏まえ、堤防の安全性が不足している箇所については、積極的に堤防強化を進め、必要に応じた対策を順次実施します。また、質的強化の実施までの間、効果的な水防活動の推進を図るために、この堤防詳細点検結果を水防管理団体等と共有化を図ります。</p>
49	60歳以上	男性	東京都	江戸川区	<p>江戸川区は、江戸川の最下流部に位置し、区内の約7割が満潮位より低い地盤である。昭和22年のカスリーン台風では、区内の大半が水没する壊滅的な被害を受けた。 また昨今は全世界で、地球温暖化の影響による異常気象が原因と思われる大規模な自然災害が発生している。 こうした状況の中治水対策は、すべてに優先して万全を期すべきである。その決め手になるのがスーパー堤防である。都市部では、スーパー堤防とまちづくりを進めるには、住民合意など困難が伴う。しかし、スーパー堤防事業は百年の大計であり、安全・安心という財産を子々孫々に残すため、やり遂げなければならない事業である。</p>	<p>江戸川区は、江戸川の最下流部に位置し、区内の約7割が満潮位より低い地盤である。昭和22年のカスリーン台風では、区内の大半が水没する壊滅的な被害を受けた。 また昨今は全世界で、地球温暖化の影響による異常気象が原因と思われる大規模な自然災害が発生している。 日本のなかで、人口、資産が集中している首都東京がひとたび、堤防決壊による被害にみまわれるなら、計り知れない甚大な被害が発生する。 こうした状況の中治水対策は、すべてに優先して万全を期すべきである。その決め手になるのがスーパー堤防である。都市部では、スーパー堤防とまちづくりを進めるには、住民合意など困難が伴う。しかし、スーパー堤防事業の必要性を広くアピールし、積極的計画的な事業展開を図るべき。</p>	<p>・高規格堤防(スーパー堤防)整備は、堤防が万が一決壊した場合、非常に甚大な被害が予想される区間を対象としており、利根川水系においては、利根川(小山川合流点から利根川河口まで)と江戸川(利根川分派から江戸川河口まで)を対象としています。 高規格堤防整備は、沿川自治体のまちづくり等の面的整備と連携して実施していく事業です。全体目標、計画内容などを具体的に記述することは困難ですが、超過洪水対策のために沿川自治体などと連携・調整して積極的に取り組んでいきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
50	60歳以上	男性	東京都	江戸川区	<p>私達が住む江戸川・葛飾など江東デルタ地帯は、百年の間に1～5mも地盤沈下した。まさに日本近代化の犠牲と言うべき公害である。それゆえ、干潮面以下という劣悪な地域が両区の2割近くを占める結果になった。今でも復興しない、ニューオーリンズと同様な地形と化したのである。そこで急遽、高規格堤防なるもので完全を期そう、と江戸川区小岩～篠崎間で準備が進んでいる。2点提言したい。高規格堤防を輪中堤として完成するには、四百年と一部の新聞にあった。冗談ではない、公害という視点が欠落している。当然の権利として予算を獲得すべき。せめて顔が見られる孫子の代、百年を目指さなければ意味がない。つぎに、高規格堤防敷の設定である。如何に優れた計画でも、今のやり方は関係住民にとって、寝耳に水、の話。最低の準備期間が必要だ。堤防敷設定の法改正までは、着工まで10年の猶予期間を設けるべき。篠崎公園など先行可能なところから初めよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格堤防を100年以内に完成してもらいたい。 ・高規格堤防敷を確定してもらいたい。ただし、高規格堤防の計画については、地元説明から着工まで10年の猶予期間を設けてほしい。 	<p>高規格堤防(スーパー堤防)整備は、堤防が万が一決壊した場合、非常に甚大な被害が予想される区間を対象としており、利根川水系においては、利根川(小山川合流点から利根川河口まで)と江戸川(利根川分派から江戸川河口まで)を対象としています。</p> <p>高規格堤防整備は、沿川自治体のまちづくり等の面的整備と連携して実施していく事業です。全体目標、計画内容などを具体的に記述することは困難ですが、超過洪水対策のために沿川自治体などと連携・調整して積極的に取り組んでいきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
51	40代	男性	群馬県	高崎市	<p>1. 河川の冷濁水、生態的連続性、河床について 現状の河川は、アユ等の生息に関して様々な問題を有していることから改善が必要である。</p> <p>2. 河川利用について 河川の現状における高水敷利用は本来の河川利用の面から見て一部に問題があるので見直していただきたい。</p> <p>4. 整備計画に示されている内容について 利根川・烏川合流点に計画している遊水地についてはアユの産卵に重要な位置であるので配慮願いたい。利根大堰におけるサケの遡上データ図表は、利用が適当でないと思われるので、アユの遡上データ図表を利用していただきたい。</p>	<p>●河川の冷水、濁水と河床について ○上流ダム水温は8月には20℃を超えているが、藤原ダムの表層水は15℃前後であり、農業用水や河川環境に悪い状況となっている ○矢木沢ダムの濁水の長期化は今後さらに多くなる ○上流ダム群や支流の堰、治山施設により川に供給される土砂が減少し、河床が更新されない ○土砂の源流から海への移動は生態的にも重要である ■河川に長期間日が当たらずに藻が育たないため、生き物に優しいダムの運用を検討してほしい</p> <p>■高水敷の利用により、低水路の蛇行がなされず、瀬や淵等の健全な川が成り立っていない</p> <p>■魚類環境の指標は、サケが基準となっているがサケは冷水域にすみ遡上力が強い魚なので、アユを環境の指標にしてほしい</p> <p>●水環境と河川環境の整備と保全は、釣り人、漁協関係者、県民の願いである</p> <p>■河川の生態的な連続性について、河川横断工作物の改善をお願いしたい ○江戸川水閘門には魚道がないため改善をお願いしたい ○利根大堰の施設の協力によりかなり遡上量が増加したが、武蔵水路に迷入してしまう稚魚もいるため、今後運用等を検討していただきたい ○魚道の整備は、農業用施設の場合、受益者負担で改修しなくてはいけないので、河川事業費での改修をお願いしたい</p> <p>■利根川と烏川の合流点付近は魚の産卵所になっており、河床の極端な変化をつくらず、どんな整備計画か発表してほしい</p>	<p>■平成9年4月に群馬県を中心に「利根川上流部の水温に関する検討会」が発足しました。検討結果としては、「藤原ダムについては放流水温は流入水温より概ね高くなっている。また、既往調査結果からによると、玉原発電完成後の下流域の水温は完成前に比べ低くなっていない。」と位置づけられています。今後も引き続きモニタリングを継続してまいります。</p> <p>■利根川は江戸川は、場所によっては都市部における貴重なオープンスペースとなっているところがあり、高水敷はグラウンドや公園などにより高度に利用されています。これらの貴重なオープンスペースを早急に少なくすることは社会的なニーズからも難しいと考えています。このため、河道掘削にあたっては、高水敷の多様な利用状況と調整を図りつつ、河道の維持及び動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮し実施します。</p> <p>■サケのデータを掲載したのは、魚類環境の指標の基準として掲載したものではありません。河川整備計画における遡上環境の改善の実施にあたっては、生物の多様性が図れるよう検討してまいります。</p> <p>■河川の上下流方向の連続性の確保は、河川における動植物の生息・生育・繁殖環境の保全にとって重要と考えており、特に、魚類の産卵場、生育場及び索餌場等に配慮し、正常流量の確保や河川の連続性を損なっている河川横断工作物の機能・運用の改善等、施設管理者と連携を図りながら対策に取り組めます。</p> <p>江戸川水閘門は、現在魚道はありませんが、水閘門の開閉操作や水中ポンプによる呼び水対策などを実施することによりアユの遡上に対する取り組みを実施しています。</p> <p>■調節池は烏川下流部の広い高水敷を想定しており、施設の詳細は現在検討中です。整備にあたっては、良好な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生や高水敷利用者と調整を図り実施します。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					3. 計画実施段階の措置について 今回の整備計画に関する意見聴取の他に、計画の実施段階においても意見を言える場を確保していただきたい。		利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く支川等も多く、河川や地域の特性に応じて多様な意見があるため、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきなどによる意見募集、住民の皆様のご意見を伺う場の開催などをこれからも実施していきます。

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
52	60歳以上	男性	千葉県	市川市	<p>1. 河川環境の積極的な整備と保全について 流域の自然的、社会的状況を踏まえ、河川環境の整備と保全が適切に行われるように、河川空間の利用については自然共生型のものへ転換し、地域住民や関係機関との連携を図りながら地域づくりにも資する河川整備を積極的に推進していただきたい。</p> <p>2. 市街地における内水対策との連携・調整について 近年の市街化の進展や局地的な集中豪雨等による低地部での内水被害に対し、市街地の安全度を高めるためにも、河川への強制排水など、他の事業や関係機関との連携・調整を図りつつ、内水対策にも配慮した河川整備を推進していただきたい。</p>	<p>● 激特事業等により、大柏川の改修工事、真間川の開削工事が行われたが、大雨時には低い方の土地の冠水がある ■ 真間川は魚のすめるようなきれいな川へ、派川大柏川はヘドロがたまっている川から子供達の遊べるような親水公園になるようお願いしたい ○ 真間川ではウナギ、派川大柏川ではシジミを捕りに行った経験がある ■ 市川港への漂着物は市川市で焼却処理されているため、上流の地域の方々は流出物、漂流物を流さないようにしてほしい ○ 旧行徳橋で、Eボートの催しをやっているが、中止になったときに上流からいろいろなものが流れてきた ■ 江戸川の利用方法として、東京湾から旧江戸川を通過して江戸川の各所に船着場を設ければ各所に繁栄をもたらすのでは</p> <p>■ 現在の排水機場は2台設置され1時間50mm対応となっているが、もう1台設置できる余裕があるので設置し、50mm以上の降雨対応と、派川大柏川の改修工事の促進をお願いしたい ○ 台風時には、河川の増水状態を30分おきに見回りに行くことも行っている ■ 根本水門の洪水時の操作の柔軟な対応をお願いしたい ○ 根本水門が締め切りとなると、真間川の下流へ流れ込んでしまう</p>	<p>真間川、大柏川、派川大柏川は千葉県の管理区間ですので、頂いたご意見は千葉県へお伝えします。また、千葉県策定(平成18年12月)の江戸川左岸圏域河川整備計画によると、大柏川などの河川改修にあたっては、河道内の植生の回復、淵の創出など環境に配慮した構造とするとともに、浄化施設の建設や植生による水質浄化を行う計画と聞いています。</p> <p>利根川及び江戸川の広大な河川敷は、ゴミなどの不法投棄の対象となりやすく、近年、河川への不法投棄が見られ、行為者・所有者が判明しないものは河川管理者が撤去せざるを得ないケースが生じています。このため、現在、不法投棄の著しい区間は巡視の強化を行っています。また、河川に投棄されるゴミなどを減らすため、地域住民などの参加による河川の美化・清掃活動などを自治体と連携して支援し河川美化の意識向上を図るとともに、地域住民などがボランティアとして継続的に河川美化活動を実施する市民と協働で行う河川環境管理などの活用を自治体と連携し促進します。</p> <p>江戸川では、震災対策として陸上交通が途絶した際の代替輸送機関として舟運に着目し、江戸川においても緊急用船着場やその航路確保などの整備を進めており、近年、沿川の関係自治体においても舟運復活への気運が高まっていることから、今後、地域の歴史文化や河岸周辺の利用、環境を考慮しながら関係自治体とともに検討をしていきます。</p> <p>真間川を管理する千葉県の江戸川左岸圏域河川整備計画では、真間川と江戸川の合流点に15m³/s(7.5m³/s×2台)のポンプの計画があり、国土交通省で管理する根本排水機場は既に15m³/s(7.5m³/s×2台)のポンプが設置されています。根本水門の操作は、現在、操作規則に基づき実施しています。今後、千葉県の河川改修の進捗に伴い、調整を行っていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
53	60歳以上	男性	栃木県	藤岡町	<p>栃木県最南端扇状地標高15mの低湿地帯に住む人々は、往古より洪水と治水の歴史でもありその被害は、辛酸を極め多くの人命と財産を失ってきた。原因は上流の利根川の流化能力不足により、支流の渡良瀬川の負荷増大による逆流で巴波川の堤防が決壊することが多い。</p> <p>渡良瀬遊水地内の第2調節池の掘削による治水容量確保は緊急の課題であり、洪水調節機能施設の充実と堤防強化、避難所造成など早期実現を要望する。</p> <p>渡良瀬遊水地内の乾燥化も進み自然環境保全も困難な状況にある。自然の恵みに感謝した「調和と共生」の道が開かれることを確信する。</p> <p>自然環境保全には歴史的認識を踏まえて、地域住民との係わりと地域活性化の事業を更に進捗するために遊水地の一部に古来の沼、池の再生等地域住民の声を反映させて、エコミュージアム構想など期待したい。</p>	<p>・我々の頼みの綱は利根川の河川の整備です。その補助的役割を果たすのが渡良瀬遊水地の治水容量の効果だと、そのように認識しています。</p> <p>・部屋南部ふるさと協議会の要望書というものを先日提出しました。協議会において、私共は沼地の再生をお願いしたい。</p> <p>・今回の整備計画が、まさに後世に評価される百年の計となりますと同時に、この地に最良の誇りをもたらすことを切望します。</p>	<p>渡良瀬遊水地は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るといふ、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水地は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>
54	60歳以上	男性	茨城県	取手市	<p>30年間、稲戸井遊水地を見続けてきた者として、利根川水系における河川整備計画の「稲戸井調節池の運用と大規模掘削」について、見直されるよう求めます。</p> <p>稲戸井調節池(現在は遊水地)は利根川中流域では規模の大きな河川林があり、遊水地は、洪水期に利根川から水が入り、遊水地の役割とともに、水が入ることで動植物に良い環境を与えています。稀少種の植物も多く生育し、小動物も生息し、野鳥も多く見られます。特に1年を通して猛禽類が見られ、多い日は1度に数種類の鷹などを見られる貴重な場所でもあります。</p> <p>今回発表された計画は、大洪水を想定し、河川敷内を5メートル掘削するもので、良質な自然環境に深刻な影響を及ぼし、河川敷は一部の河川林地帯を除き地下水が染み出す湿地となるでしょう。植物にも、小動物にも大きな影響が出ます。それらを餌としている猛禽類なども見られなくなるでしょう。</p> <p>近年集中豪雨などによる被害の要因には、乱開発や、危険地帯への宅地造成、山林の荒廃、休耕田の増加など、人為的なものであるように思えます。洪水対策で「遊水地」はとても効果的であると思います。調節池ではなく「遊水地」として活用を望むものです。以上の理由から調節池や大規模掘削を見直されよう要望します。</p>	<p>・稲戸井調整池の掘削について、ぜひ見直ししてほしいという立場で公述したいと思います。</p> <p>・洪水というのは川だけじゃなくて国土全体、町も山林も田んぼも含めて全体としてどう防ぐかということを見ないと、だめなんじゃないかと思っています。</p> <p>・この2万2000m³/sという数字については、しっかり再度見直ししていただいて、その上で対策をとっていただければと思います。</p> <p>・本当に小さな洪水対策まで含めてしっかり見直ししていく、総合的に考えていくときだと思っています。地球温暖化、それから貴重な税金を大事に使うという面からも再度見直ししていただきますようお願いをして公述いたします。</p>	<p>鬼怒川合流点下流の利根川左岸側にある稲戸井調節池は、周辺にある田中調節池及び菅生調節池と一体となって洪水を調節することにより、利根川の下流部における治水安全度の向上を図る施設です。</p> <p>稲戸井調節池では、現在、周囲堤、囲ぎよう堤、越流堤、各排水施設等の調節池化整備を行うとともに、池内掘削を順次行っているところです。</p> <p>また、事業にあたっては、多様な湿地環境の再生を図るため、モニタリング調査を実施するとともに、必要に応じて、学識経験者等の意見を聴きながら、実施しているところです。</p> <p>なお、池内掘削で発生した土砂については、利根川及び江戸川の「首都圏氾濫区域堤防強化対策事業」の盛土材料として有効活用をすることを考えています。</p>